

2017年5月12日

授業に対する学生のコメントと教員による応答

★以下のコメントは、提出した順になっています（一番下がいちばん先に提出されたもの）。

まず、今回の講義の要約は、読書の目的は、知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、考えるヒント・生きる力を得ることだ。大学での教養・専門を身に付けるためには不可欠であり、知識を広げ、教養を高めるための本を読むことも大切である。読書はしてもしなくてもいいものではなく、ぜひとも習慣化すべきことだ。

読書のコツは、まず、習慣化することであり、食事するのと同様に、日々の生活の中で続けることだ。多忙を言い訳にしないで、隙間時間を活用する。次に、速読、平読、精読を使い分け、ギアチェンジして読むことだ。小説やエッセイ、新書などの論説文、学術論文・レポート、実用書など、本の種類に応じて適した読み方をする。最後に、読書しっぱなしではなく、アウトプットすることだ。読んだらそのことをもとに考えたことを書いたり、人に話したりしてみる。

「三色ボールペン方式」という青・緑・赤で線を引きながら読む方法がある。客観的に大事・主観的にももしろい・客観的にも大事な部分を意識しながら読む。また、既知を読む・未知を読むという「アルファー読みとベーター読み」もある。

そして、今回の講義での主張に対する意見は、日常生活において読書できる場を見つけ、定期的に読書会をすれば、学生は読書をするようになるという主張に賛成である。なぜなら、定期的に読書の時間を設けることで、読書が習慣化されるからだ。学生は、自発的に読書の時間をつくりだし、継続的に読書をすることによって、読書を習慣化しなければならない。

今回の授業の中で、十代の読書量が老衰で肉体的に読書が難しくなる70代を除くともっとも少ないというデータが挙げられていた。

現在の十代が物心ついた頃からデジタル機器に囲まれて育った最初の世代であることを考えるとこの数字は今後ますます低くなることが予想される。

読書の重要性を示し続ける事は重要だが、今後のデジタル化社会においては電子書籍の

統一規格化も重要だ。各社がめいめい勝手に独自規格を作っているようでは書籍というメディア自体が電子化の流れに取り残され、廃れてしまう。

コメント [y1]: 市販の電子書籍はたいていEPUB形式で統一されていると思いますが。

本について、本が売れていない、そのため書店が減っているということが起こっている。私は時間が無いということで、本を読んでいなかったが、トイレの間、寝る前、など僅かな時間でも読書できると知り、時間が無いということはただの言い訳であると読書に対する考えが変わった。読書するコツは音読や全読、再読などがある。そして、本を読むということは知識を広げるために大切なことであると学んだ。

今日の授業では読書をすることの重要性を学んだ。読書をする事で、想像力を培い同時に言語能力も鍛えることができる。また、知識を広げ教養を広めることも可能だ。総合科学部生としては、教養を身につけるための第一歩として読書を始めてみるのが望まれるのではないだろうか。

コメント [y2]: 実行していますか？

今回の授業では、前回の小テストの確認と、授業コメントに対する応答と、宿題をやってきたか確認する小テストがあった。そのあと、読書について学んだ。学生が本を読まない、ということが問題視される声をきくことがあったり、その対策として読書を課題として、本を読ませる機会をわざわざ設けたりすることがあるため、実際に、読書をする学生は少ない、またはいないものだと認識していた。そのため、今回も読書アンケートの結果で、まったく本を読まない人が4分の1なのには驚いた。しかし、そのあと見た全国の学生実態調査の結果から、本をまったく読まない人の割合が増加傾向にあることを知り、やはり、若者の読書離れが起こっていることを認識した。また、なぜ学生が読書をしないのというアンケートの結果でもっとも多かった回答は、情報源が本以外だから、であった。現代の若者は、本以外の情報源である、スマホ、パソコンなどのインターネットを利用する人が圧倒的に多い。なぜなら、スマホなどは外出先でも常に持ち歩いており、見たい知りたいものがすぐ見つかる。わからない英単語の意味を調べるのも、紙の辞書を開くより、スマホで調べたほうが簡単に答えを見つけられる。ある事柄について知りたいときも、何冊かの本を図書館から借りて読むよりも、インターネットで自分の知りたい話題の部分のみを検索すると、すぐ見つかる。また、自分の知らなかった新しい本も関連物として目につくことまである。読書をしらない理由で、約30%の人が多忙であるから、と回答しており、このようなインターネットの早く簡単に、スマホやパソコンのみで自分の欲しい情報が手に入ることは、読書離れの要因である。また、最近では、電子書籍というものもあり、より紙の本に触れる機会が減っている。だが、読書をするなら紙の本を読み、情報を集めるの

コメント [y3]: 適当に段落を区切ってください。

には本も活用すべきである。今まで書いたように、確かに本以外での情報収集のほうが便利である。しかし、時間がかかっても、本を読むことで、自分が欲しかった情報にたどり着くまでに、新たな情報に出会うことができる。少し面倒なことではあるが、確実に自分の知識の蓄えになるものである。もちろんインターネットも便利なものであるため、積極的に活用すべきであるが、それが情報を集める際にすべてになってはならない。必ず本でも情報収集をすべきである。そうすると、本を読むなら電子書籍でいい、となってしまう。しかし、知識を蓄えるときに、自分の手で紙をめくり、一ページずつ読み進めることが大切である。なぜなら、自分がこの情報を得たという実感が大切で、このように、単に目で文字を読むだけでなく、手でページをめくることでより鮮明にその知識を覚えることができるからだ。もちろん本で読んだからといってすべての知識を覚えておくことは不可能である。だから、読書をする際は、本を実際に購入し、手元に読み返せるようにしなければならぬ。同じ本を読み返すことは、知識の定着のみならず、前回読んだときとは違った視点で情報を捉えることができる。よって、学生のみならず、人は、本以外の情報源のみに頼るのではなく、本の価値、本から得られるものを考えたうえで、忙しいなかでも、自分で購入した本を読むべきである。

コメント [y4]: 身銭を切るといいますが、そうすることで本の読み方も変わってくるでしょう。

今回の総合科学入門講座では、主に読書の大切さを学んだ。はじめに、日本の大学生の4年間の読書量は平均100冊だと知った。対してアメリカの大学生は平均400冊読むそうである。このことから、日本の学生がほとんど本を読まないことが読み取れる。100冊というのも、授業の課題で読まなければいけなく自分から選んだ本ではないかもしれない。正直、アメリカと日本でそんなに差がつくとは思っていなかったが、自分のことを考えてみると100冊でも多いかもしれない。また、世界の読書好きランキングも、私は日本は少なくとも10位以内には入っていると考えていた。しかし実際は29位であり、先に書いてある日米大学生の読書量の結果からも妥当だと言える。私は、大学生になって忙しく時間が無ことから、読書をする時間が確保出来ない。しかし知識を深めるために読書は大切なことである。読書は想像力や言語能力を養うことが出来る。適切な読書をするために、携帯を操作する時間を減らし、出来るだけ読書にあてる習慣を作っていきたい。

今回の授業は読書の推進で、読書の目的やコツについてだった。読書をする目的は知識を深めること、想像力を高め言語力を鍛えることで思考力を養うこと、共通の記憶に触れること、考えるヒントや生きる力を得ることである。本は様々な考えの人たちがそれぞれの視点から書くため、同じテーマで書いても全く違う展開になることが多い。書いた本人と直接話すことはできないかもしれないが、それぞれが考えていることは本を読むことで知ることができる。つまり本は読まれることで、それぞれの考えを間接的に繋げる役割も

果たしている。これは想像力を高めることとかぶるかもしれないが、相手を思いやる力を養うことにも繋がっているのではないだろうか。なぜなら様々な考えを知ること、そういう考え方も存在するのかと新たな考え方を自分の中に持つことができ、相手の気持ちを考えるための材料が増えるからである。読書をしていく中で、教養的な知識だけでなく、生活の中の一場面を助ける力も身につけていきたい。

読書のコツについては、習慣化すること、読む物によって精読、平読、速読を使い分けること、アウトプットしながら読んでいくこと、音読、会読、再読などをするのである。私がここで驚いたのは音読がコツに入っていたことだ。以前から音読は好きでやっていたが、早く読める方が効率もいいし、読むのが遅いことを自分の弱点だと思っていたため、途中から音読を辞めてしまった。しかし、声に出すことで脳が一番活発になることを知れたので、**また音読を再開し、有意義な読書にしたい。**

コメント [y5]: 音読は、語学をする際にも有効ですよ。

今回は、「読書の勧め」についての講義であった。

まず初めに学んだのは、「読書の目的」についてだ。読書をすることで、知識を広げ教養を高めることができる。このことは、大学での教養・専門の知識を身に付けるためには不可欠である。

たとえば、読書をすることでその本の著者の考えを知ることができる。著者の意見が自分の意見と比べ、肯定的であれば、自分の考えに加えさらに、著者の意見を取り入れ、より自分の考えを深められる。仮に、著者の意見が自分の意見と比べ否定的なものであったとしても、自分とは逆の考えを知ること、自分の意見について改めて検討する機会になる。

しかし、読書をしていなければ、そのような意見を聞くことのできる場に足を運ばない限り、自分の意見を改めて検討する機会は設けられない。

それゆえ、読書することは大切である。

つまり読書とは、手軽に他人の意見を聞くことのできるものである。

次に学んだのは、「読書のコツ」についてだ。

読書には、速読・平読・精読があり、それらを使い分けることがコツである。新書などの論説文は、目次・「はじめ」と「終わり」・見出しに注目しながら速読するとよい。また、小説やエッセイは精読し、学術論文・レポート、実用書などは、テーマに関するところを読み、キーワードで読み取ることがカギである。

今回は、読書についての講義だった。はじめに、読書に関するデータを確認した。大学生の一日当たりの読書時間が0分だという割合は、4割を超えるそうだ。その背景として考えられることは、大学生の多忙であるそうだ。学業、アルバイト、部活やサークルなどの

様々な活動に費やす時間は多いようだ。次に、読書の目的について確認した。「知識・情報を深め、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」、例として挙げられていた読書について様々な人の様々な見解をみていくとこのことが理解できる。その目的をより近いものとするための読書のコツとして、習慣化・読み方の工夫(速読、平読、精読)・アウトプットの3つのことが考えられる。この3つを意識することはもちろんであるが、やはり最終的には自らが進んで読書を試みる必要がある。そこで、まずは、読書をする環境を作ることが大切になる。

講義では、通勤時間の長い人のより多い都市圏の人のほうが、自家用車通勤の多い地方の人のほうが読書をする傾向があると仰っておられたが、それを裏づけるデータがあるのか、そして実際に一人当たりの読書時間にどの程度差があるのか。

今回の授業では、読書することの意義を知った。ただ読むだけではなく、その話の背景や気持ちなどを想像し考えながら読むことが大切だ。また本を読むことで、知識や教養がみにつき自分の考え方も広がり想像力が豊かになる。私は夜の静かな時間に読書をする、心が落ち着き体も休まり有意義な時間が過ぎせる。そういった時間を確保することは誰にとっても大切であり、今後実施していくべきだ。

今回の授業で気になった点は、「20代が最も読書を行っている」ということと、「男女別にみると男性の方が読書を行っている割合が大きい」ということだ。まず前者だが、僕はてっきり社会人よりも学生のほうがたくさん読書を行っていると考えていた。学生のころは自由な時間が社会人よりも多く、学校に図書館があり本に触れる機会も多いからだ。後者についても僕にとっては意外な結果だった。政治家など、いろいろな文献を読んで理解しなければならないような職業の男性の割合が女性よりも大きいことが少しばかりは影響していると考える。

今回の授業で以下のことがわかった。一つ目は読書の目的とは幅広い知識をつけると同時に、想像力を養うことであるということ。二つ目はカフカやショーペンハウアーなど、様々な人が、読書について考えていたということ。三つ目は読書の方法として、音読や会読、積読などの、いろいろな方法があるということ。最後は読書は習慣にするべきであるということ。

読書のコツで話していた、 α 読みと β 読みがあるということをきちんと認識して、区別することはとても重要なことである。なぜなら、自分が知っていることについて何冊の本を読んだところで、自分に対して何かプラスになるものは少ないからだ。確かに β 読み

コメント [y6]: よりも

コメント [y7]: 授業をきっかけにして、まずは自分で調べてみよう。

コメント [y8]: そのものずばりというものはみつけれられていませんが、hontoのアンケート調査「読書の実態」

<https://honto.jp/article/reading-time.html>によると、読書する場所としてアウトドアでは「電車・バスなどの乗り物の中」が最も高率になっています。こうした乗り物による通勤通学時間が長いのは都会の方ですから、通勤時間の長い人の多い都市圏の方が読書する傾向があることに対して、これが多少は裏付けになるでしょうか。さらに詳しくは調べてみてください。面白いテーマになるでしょう。

コメント [y9]: 「考える」を消して根拠を示そう。

コメント [y10]: なぜなのか、考えてみても面白いですね。

は気軽に行えるものではないかもしれない。しかし、 α 読みしかしなくなると、自分が知っていることを確認するだけになってしまい、そこから少しも発展しない。つまり、読書の目的の一つである、幅広い知識を身に着けることができなくなる。また、知っていることを読むので、想像力も使わない。それゆえ、想像力も養うことができない。つまり、自分のためには β 読みをしなければならないのだ。

読書と大学生活には共通点がある。読書は自らが本を開いて読み始めなければならない。大学生活もまた、自らが主体的に動かなければ意味がないものになってしまう。つまり、読書と大学生活には、能動的に行動することが求められるという点で共通点を持つと言える。

コメント [y11]: 能動的・主体的というのを大切にしましょう。

今回の講義は読書についてだった。読書時間が0分の学生が49.1%もいるという結果となっている。(全国大学生生活協同組合連合会「第52回学生生活実態調査の概要報告」<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> 2017/5/14 閲覧)アルバイトであったり、スマートフォンで時間を潰したりする学生を見かけることが多い。しかし、アルバイトの就業時間中に読書をすることはできないが、スマートフォンで遊んでいる時間を読書の時間に変えることは可能である。そうすることで、依岡先生が話されたように、読書を習慣化することができるし、知識や情報を深めることができるだろう。

高校生や大学生のうちに読んでおくべき本がある、と担任であった先生によく言われていた。高校生の頃から様々な本を読んでいたが、小説などの読みやすい本に流れていた傾向にあったことを痛感した。これからは、自分が研究したいことに関係する本はもちろん、関係なさそうにみえる本でも積極的に読んでいきたい。なぜ関係なさそうな本を読むかという、その本から得た知識や情報が、研究や雑学として生かすことができるかもしれないからである。

今回の授業は読書についての話だった。

読書は自分と教養を高めたり、知識をつけるために必要な事だということはわかったが、課題図書になっていたような本に書かれていたことは作者によってまちまちだった。

私は、本を書いている人は多くの人に本の魅力を知ってもらうために読書を勧めるイメージがあった。しかし、一部の作者は「読みすぎるのはよくない」のようにマイナスな発言をしていた。読書をするなどとは言っていないが、どうしてと思わせるような言葉だ。なぜこのような発言をするのかをこれらの本を読んで確かめたい。

また、1つ印象に残っているのは自分の想像以上に書店で本を買う人が多いという事だ。今の時代だとインターネットで買うのが主流だと思っていたが実際は違った。

だが、依岡先生の「書店自体が減少しているから本に触れる機会が少なくなる」という

コメント [y12]: その通りですね。いろいろな読書の仕方や読書についての考え方があります。それを参考にして自分なりの読書スタイルを見つけてもらいたいですね。

言葉はその通りだと感じた。学生で読書をする人が減っているというのも聞いて、読書を始めるきっかけになる図書館での取り組みに参加し本の良さを改めて実感したい。

私は読書をすることは好きである反面、本の好き嫌いが激しい、という弱点があります。自分と価値観の似ている著者や登場人物のものは、読みだしたら止まらないほどにおもしろいのですが、どうも自分では共感ができなと感じたり、そもそも関心がない事柄であったりすると、完読することができなかつたりします。しかし、この講義では、読書の目的とは知識を深めて想像力を培い、考えるヒントや生きる力を得ること、とされており、そのためには、今の自分とは違ったものの方を見る著者の本にも触れてみなければならぬと痛感しました。

今回の授業では読書の大切さについて学んだ。その中で私が特に興味を持っていたのが学生がどのようにすれば読書をするのかという点である。確かに私たちの世代は私たちよりも上の世代より本を読む時間においては大きく低下している。これはスマホの普及などですぐに情報を得ることができ、しかも本などで読むよりスマートでかつ効率的だからだ。しかしやはりスマホなどでは、自分の知りたいことのみしか調べないので自らの知識の幅を広くしていくことはできない。よって私たちは本を読むことによって知識を増やすべきだ。それも義務や強制的にではなく、自発的に、本に親しみながら読書に勤しみ、読書を通して知識を得ることを楽しむべきだ。

コメント [y13]: その通りですね。

今回の授業は、読書についてだった。

日本の習慣としての読書量を世界各国と比較したデータを見て、日本の状態を客観視し、読書の大切さを問うものだった。

日本では、「読書をしなさい。」と教育されることが多いように思う。しかし、読書量の多い国を見ると、1週間に4冊は読んでいる。推測するに、彼らは自らの意思で読んでいる。

私は、子供が何か継続性を持ったものを続けられるのは、そこに楽しみを見出しているからだと思っている。

日本の読書においても、例えば音読の課題は、合格の基準を声の大きさではなく、いかに感情を込められるかといった基準を1番においてみるのも良いのかもしれないと思った。

コメント [y14]: 音読の試験があるのですか？

私は普段から読書をあまりしません。読書の大切さは理解していますが読書をするような時間的余裕はないし正直面倒に感じるからです。また最近ではスマホがあるので情報源

に困らないからです。しかし今回の授業を受けて大学での教養を身につけるためには本を読むことで知識を深め想像力を養う必要があると知り読書の大切さを改めて感じました。これからは面倒だと感じても読書を習慣づけられるように努めたいです。

今回の授業で、いかに読書をするのが大事かを学んだ。私は、活字が苦手で、本を読むことから避けてきたが、今回の授業を受けて、その苦手を克服する必要があると痛感した。だが、読書をあまりしていないのは私だけではなかった。ほかの国と比べて、日本は平均読書時間が短いし、年代別で見ても特に10代は本を読む時間が短かった。読書よりも優先順位の高いものを先にやったり、スマホが情報源だったり、読書離れしている理由は様々だが、読書によって得られる力はたくさんあるので、隙間の3分でもいいから少しずつ時間を見つけて積極的に本を読む必要がある。さらに、ただ本を読むだけでなく、速読・精読・通読を使い分けたり、本に印をつけたりするなどのコツを掴むと、もっと本が身近に感じられて読みたくなるし読書が習慣づくので、学校でももっと教えるべきだ。少なくとも、徳島大学総合科学部生は読書のコツなどを学んだので、読書が嫌いでも少しずつしていくことが大切である。

今回の講義は読書の勧めだった。私は、普段読書をあまりしない。少しでもいい気が向いた時に読むぐらいだ。全体アンケートでもほとんどの人がしていないことがデータ上からもわかった。購入場所という項目で、書店という答えが多かったのが意外だった。今はインターネットが普及しているため、電子書籍やネット販売が多いかと私は思っていたが、違っていた。

私は読書はしたいときにすればいいと考える。人に無理やりさせられても頭には入らず、意味がないのではないのでしょうか。自分が本が読みたいと思えば読み、その内容をしっかり理解し、情報を吸収する方が効率が良いと考える。

今回は「読書の勧め」についての講義だった。若者の読書離れが騒がれている中、読書をするとはどういう意味があるのか、根拠のあるデータを基に本質を教わった。私自身読書好んで行くほうではない。というより読書についてとても苦手なイメージが強い。今までは何となく本を読まなければならない、と思うだけであつたが今後は本を読むとは、自分が行っていないこと、さらに行いえないことを疑似体験できる場であるということに肝に命じて本とかかわっていきたい。

コメント [y15]: したくない人は、しなくていいということですか？

コメント [y16]: たしかに無理強いされてもあまり身に付きませんね。まず興味のある本から読みながら、徐々に興味の幅を広げるというのはどうでしょう。様々なものを学ぶ大学生活を豊かにするはずですが、読書によって未知なことに触れることは、大学でこそ味わえる楽しい体験となるでしょう。

今回の授業は、読書に関するデータを参照しながら、読書の楽しみ方について学んだ。最も頭に残っているのは授業中に出てきた「多忙を言い訳にしない」(長田弘『本というふしぎ』みすず書店、1999年)という言葉だ。正直、今まで課題があるから本を読んでいたのがほとんどだったし、その課題でさえ、多忙を理由に後回しにしてきた。しかし、都合のいいように解釈しているだけであって、実際は、スマホを見て、ダラダラしている時間が多い。本当に多忙であっても、授業前の10分、寝る前の10分は取れる。自分も読書の楽しみを味わいたい。だから私は、時間を見つけ、毎日続けて習慣化することから始める。

今回の授業は、読書についてでした。初め、読書に関するデータから大学生がどれほど読書をしていないかが明らかになった。全国で約4割弱の学生が読書時間0分であった。次に読書の目的について説明してくださいました。読書は大学の授業での教養・専門を身に付けるためには不可欠なものである。また、教科書・参考書はもとより、知識を広げ教養を高めるための本を読むことも大切であると説明してくださいました。知識・情報を深め、想像力を培い、共通の記憶に触れることで、考えるヒントや生きる力を得る。次に、読書のコツとして、習慣化する。新聞や論説文の時は速読で小説やエッセイの時は精読といったように使い分けをする必要がある。読書だけをするのではなく、読んだらそのことをもとに考えたことを書いたり、人に話したりしてみることも大切である。

読書時間が0分の学生が4割もいることに大変驚いたが、今ではネットが調べればすぐに欲しい答えが出てくるところから学生は読書をしないのではないだろうか。また、実際私も読書をしていなかったので今回の授業で読書の目的を学ぶことができ私にとって有意義な授業でした。今回の授業を活かし1ヶ月に1冊を読む努力をしたい。

コメント [y17]: 自分で目標を決めてやるのもいいですね。

今回は読書の勧めということで、講座を受けた。大学生の1日あたりの読書時間0分が4割超という結果であった。私も、その4割に含まれる。読書は大学での教養・専門を身に付けるためには不可欠であり、教科書・参考書はもとより、知識を広げ教養を高めるための本を読むことが大切であることを、改めて理解した。また読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられ、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになることを知った。読書の目的とは、知識・情報を深め、想像力を培い、共通の記憶に触れることで考えるヒント・生きる力を得ることであった。読書のコツとして、習慣化することが重要であった。また、速読・平読・精読の使い分けや、読んだことをもとに考えたことを書いたり、人に話したりすることであった。

私は今回の講座を受けて、読書に対する考え方が変わった。大学生の間に本を沢山読もうと思うと同時に、人生の時間を広げ、かけがえのない人生のゆとりとなる本に出会いた

いと強く感じた。徳島大学には充実した図書館があり、いつでも本に触れることが可能な環境にあるので、読書を楽しもうと思う。

コメント [y18]: 図書館は、どんどん利用しましょう。

今回の授業では、依岡先生による読書の勧めに関する授業だった。大学生の1日あたりの読書は、0分が4割越えということに驚いた。その中の一人が私でもあるのだが。私も中学生の頃までは読書が好きでよく本を読んでいたのだが、高校生になると途端に読むことがなくなった。若者の読書離れがよく言われているが、私の経験からすると高校生になるとやはり読書のために開けられる時間がないということだ。今、考えてみると時間を上手く使えば本を読む時間もあつたと思うが、当時は自分のことにいっぱいいっぱいである。また、高校受験とは違って全国の学生と勝負しなければならない大学受験が待っている。そのほかにも部活が忙しくなったり、毎日塾に通わなくてはならなかったりと大変であることが原因ではないかと考える。しかし、やはり今回の授業を聞いて若いうちに継続して読書続けることが大事である**ことが大切であると知った?**。なぜなら、読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることであるからだ。大学に入学して1ヶ月経ったところだがまだ読書の時間が取れていない。日々の生活に読書を取り入れ、ものごとを多方面から考える力を手に入れたい。また、今回の授業で興味深かったのは、スローリーディングの読み方である。今まで、高校の授業でも速読ばかりを指導され、センター試験でも速読が重要であったのでスローリーディングの方法を忘れていた。時間に余裕のできる大学生の今のうちにじっくり本を読むことも悪くない。本の種類に偏らず、多くの本を読みたい。

徳島大学生の読書をしている人の割合が標準より高かったといっても、やはり4割とは、決して高い数字ではない。多忙、関心の薄さなどから読書をすることから逃避している人が多い。私もそのうちの一人である。

読書の目的は、知識・情報を深めること、想像力を培うこと、共通の記憶に触れること、考えるヒント・生きる力を得ることであると教わったが、まさにその通りであると思う。書物から知識を得て、自分とは違う視点からの物事の考え方を学び、問題に直面した際の思考力を培っていくことができるのは本を読むことの大きな利点である。

しかし、これらの利点は簡単に得ることができるわけではなく、積み重ねが必要不可欠である。日々の生活の一部として、読書をするために時間を割くことが大切である。そして、そこで得た知識をインプットするだけにとどまらず、アウトプットして意見を伝えていくことでより自分の知識として身につく。

本は多くの知識を集めたものであるため、常に持つておくことで、常に知識を持ち歩くことができる。

これから私は、読書に対して高く意識を持ち、さまざまな分野の本を通して、さまざまな分野の知識を自分の一部として取り込んでいけるように継続して読書を続けていきたい。

今回は「読書の勧め」という授業だった。一日の読書時間が0分の大学生が40%を超えているというデータがあったが、私もその40%の人間に含まれている。中学の時は休み時間でも家でもずっと本を読んでいたのだが、高校に入ってからばたりと読まなくなってしまった。読書することより、携帯をつつくことや寝ることのほうが優先になっていったからだ。しかし今回の授業で、「読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を養うこと、共通の記憶にふれること、考えるヒント・生きる力を得ることだ」ということを学んで、改めて読書の大事さに気が付いた。中でも、「知識・情報を集める」ということは授業内容の理解を深めるために重要なことであるから、少しでも興味を持った分野や分かりづらかった内容について本を読んで、知識を増やしていきたい。

また、読書のコツという項目の、「多忙を言い訳にしない」という言葉が胸に響いた。まとまった読書時間は取れなくても、少しの空き時間というのは必ずどこかにはあるはずなので、毎日本を読むようにしたい。

今回の授業では、読書の大切さ、学生の読書の状況について学んだ。講義では、読書は大学での教養、専門を身につけるためには不可欠であり、知識を広げ、教養を高めるために読書をするのが大切であると言っていたが、実際は講義で示したほど大切ではない。大学生にとって大切なのは読書より、将来社会に出た際に通用するような、人格の形成である。そのために、多くの経験をし、様々な人と関わることを重点におくべきである。確かに、読書で得られるものがあるのは事実である。しかし、データが示すように大学生で1日あたり読書の時間が0分の割合は4割にのぼる。また、ほとんどの学生が読書の時間が少ないのが現状である。こういった事例から、読書の大切さをいくら説いても、学生の読書状況は変わらない。だから、講義で読書などの話をするのではなく、**人格形成のために必要なことを学ぶ方が良い。**

学生が読書をしない原因の1つには読書を勧める人があるのではないだろうか。まず、強制的に読書をさせようとする事。読書が好きな人でも興味の無い本をすすんで読む事は基本的にならう。読書に興味の無い人ならなおさらである。次に読書に対して面倒くさいというイメージを無自覚に植え付けているという事だ。読書をする習慣のない人に読み方まで求めるのは酷ではないだろうか。

コメント [y19]: 私も常に自分に言い聞かせている言葉です。

コメント [y20]: 人格形成に必要なこと、それは読書です。

コメント [y21]: 授業では読書の目的のひとつとして「人間力」としましたが、読書を通して人格形成するということも、大いにありうると思います。

コメント [y22]: 読書を勧めるひとりとして、強制的に読書させることはよくないと思っています。興味のないことをさせるのは難しいからです。ただ大学の研究のために本を読まなくてはならないことはあります。しかし、それは強制とはいわないでしょう。学びたい気持ちや探求心・好奇心が読書の前提であるとすれば、まずはその興味・関心を育てることです。私に言わせれば、そのためにも本を読むのがいいでしょう。もちろん、とにかく読書することが無条件で善であるということでもありません。読書自体が自己目的になることを戒める人がいたことも、授業では触れませんでしたね。

コメント [y23]: 「愚かな人は愚かなままでよい」ということですか？

今回の講義では、まず前回の講義の復習と宿題の確認テストが行われ、次に読書に関する講義が行われた。

事前に行った読書アンケートの1日の読書時間の項目から、30分未満だという人が約半数で、この講義を履修している学生の中で最も多くの割合を占めていることが分かった。しかし、0分つまり全く読まないという人が約3割いることも分かった。また、1か月の平均読書冊数の項目から、1~2冊読む人は約半数、0冊つまり全く読まないという人は約3割いることが分かった。他国と比べても、日本の週間読書平均数は30か国中29位とかなり低いことが分かった。

書籍新刊点数は年々増加しているにもかかわらず、出版物の販売額は減少している。また、書店数、出版社数も共に減少している。

最近では、わざわざ時間のかかる読書をしなくてもインターネットで情報や知識を集める方が効率的ではないかと言う人もいると思うが、私は読書をする時間をもっと増やすべきだと考える。インターネットだとすぐに調べられるため便利ではあるが、誰でも情報を発信できる分情報量が多すぎるという問題がある。情報量が多すぎると自身の意見を持つということをしなくなり、思考力を養うことができない。インターネットが発達した現在において、情報を収集する能力よりも情報を活用して自身の意見を主張する能力の方が重要視されている。読書を行うことで、情報や知識に振り回されることなく思考力を鍛える必要があると考える。

学生の読書数を増やすために定期的に読書会をすることを挙げているが、アンケート結果を考慮すると適切だとは言えないと考える。どんなときに本を読むかという項目で、「自宅でくつろいでいるとき」、「待ち時間」という回答が約半数を占めており、時間を捻出して読書をするというよりは、空き時間を有効活用するために読書をするという人が多いということが分かる。よって、読書が好きでそのために時間を設けるという人を除き、多くの学生にとって読書会に参加することは難しいと考えられる。まずきっかけとして、短編小説など空き時間に手軽に読むことのできるページ数の少ない本を紹介し、生活の中で読書のために時間を設けるようになってから定期的に読書会を開くと、より多くの学生が読書を楽しみ行うことができると考えられる。

私は今まで読書について深く考えたことがありませんでしたが、今回の授業で読書をする意義や効果を知ったので読み方が変わりそうです。読書には興味があるのですが、時間がないのをせいにしてあまり読んでいません。今、先輩に本をたくさん借りています。読んでない本がほとんどなのですが、「問題解決」、「コミュニケーションデザイン」、「共感のマネジメント」などのテーマで今まで触れたことのないジャンルなので今回の授業を踏まえて読んでいきたいです。

コメント [y24]: たしかにそうですね、読書会に参加するのは今の段階だと難しそうですね。ただ何らかの形で読んだことをアウトプットする場はあった方がいいでしょう。またできるだけ早い段階から読書するきっかけになるものがあればいいですね。

今回の大学入門講座は読書に関して学んだ。

講義の中では、「現代の学生が読書をあまりしていない」という統計結果や、読書の目的について知ることができた。

この講義の中で私は「本をありがたがって、読みすぎると、心の近眼になって、物がよく見えなくなる」(外山滋比古『乱読のセレンディピティ』、扶桑社文庫、2016年)という言葉が気になった。確かに読書を通して知識や情報を得ることは大切なことだ。しかし本を読むだけでは得られないこともあるのではないだろうか。例えば、世界遺産を生で見た時の感動を想像力だけで体験したりはできないだろう。また、知識を得ただけでは読んだことの無いものに出会った時に何もできないただのマニュアル人間になってしまうだろう。

そのためただ読書量をいきなり伸ばそうとするのではなく、知識を蓄えることと実際に体験して未知のものに出会うことの両方を大切にすべきだ。

知識を得る→実践する→未知のものに出会う→知識を増やしたくなるというサイクルができれば、自然と学生の読書量は伸びるのではないだろうか。

コメント [y25]: いいと思います、ぜひ実践してください。

読書は良い習慣である。という認識を私は以前から持っていたが、時間がない、面倒だ、等の理由をつけて読書をしなかった。以前まで活字を見る機会は新聞のみであったが、大学では時間的な余裕が増えたことに加え、豊富な蔵書を抱える附属図書館があるという環境であるために、本に触れる機会は高校生活を送っていたころと比べ、確実に増えている。

「読書レポートなどの課題で必要だから本を仕方なく読む」といった半ば強制されているという認識を改め、自主的に読むことができるようになりたい。しかし、読書の習慣を身に付けていなかった私が主体的に本を選び出すのは難しいので、読書レポートの課題図書や参考図書を読むことから読書を始め、読書の習慣をつけることから始めている。

【質問】

- ・書籍の販売額が減少しているのは理解できたが、その内訳に電子書籍は入っているのか。
- ・なぜ、販売額が減少しているにも関わらず、出版数は増えているのか。

コメント [y26]: なぜこの質問をするのか理由を示し、また、自分なりの解釈とその根拠を示してください。
売上高の中に電子書籍が入っているのといないのでは、何がどう違うのですか？

コメント [y27]: ぜひ調べてみてください。
毎日新聞の読書世論調査では電子書籍のことは特にことわっておりません。ただ、コミック本など、電子本を加えると増えているジャンルもあるというデータもあります。

読書をすることによって自分の知識や価値観が大きく変わると思う。1人で経験できることには限界があるが、読書を通して様々なことを経験できると**思う**。なぜなら、本には他人の考え方や自分の知らない世界が広がっているからである。ノンフィクションや新書、小説などジャンルは色々あるが、どれも読んでいてためになることが書いてあることが多い。また、本は昔の人が書いた内容がそのまま読めるため、現代と過去を繋ぐ役目も担っ

コメント [y28]: 授業でも説明しましたが、一冊当たりの部数が少なくなっているためだと考えられています。新書・文庫ブームが背景にあるでしょう。

コメント [y29]: あなたの文章の文末はほとんど「思う」で終わっています。

ていると思う。

私は最近本を読むときに線を引き、紙にメモしながら読むようにしている。線を引くことによって自分が大事だと思った箇所を明白にし、後から見返してもわかりやすいようにしている。そして自分が大事だと思ったことをまとめ、メモしている。メモすることによって一旦自分の頭の中で内容について考えるため、より深く理解できると思う。また、本を読まなくてもポイントを確認できるため見返しにも役立つ。この方法は普通に読むより時間がかかると思うが、その分しっかり内容を理解できると思う。

コメント [y30]: いいやり方ですね。

私は読書が好きだ。小学校、中学校の図書館にあるほとんどの小説を読んでいて、一日で1,2冊読むのが普通だったぐらい家でも学校でもどこでも読んでいた。外国小説も読んでいた。でも高校生になってからは本に触れる機会を作らなくなった。図書館が遠くなったのもあったけど、本を読むより友達と話している方が楽しかった。自分の興味を持った小説しか読まなくなって、1ヶ月に3冊読めば多い方になってしまった。大学に入学して、読書レポートの課題が出されて、ほぼ初めてちゃんと新書を読むことになった。高校のときにも「新書を読んだ方がいい」と先生に言われたが、堅苦しい新書を読むのが面倒で読まなかった。読書レポートでは、私が総合科学部で勉強したいスポーツ科学についての推薦図書の本を読むことにした。高校のときは受験のための勉強で手いっぱいスポーツ科学の本を読もうとしなかったが、今の私は、スポーツ科学の勉強がしたい気持ちが大きくて、読書レポートの推薦図書も熱中して読んでいる。本を読むと、関連している他の文献も読みたくなっている。読書レポートが終わったら、他の本を読んで、また本に熱中したい。

今回の講義は読書についてだった。私は読書をあまりしない。理由としては読書に興味がないからだ。私以外の読書をあまりしない人の多くも私と同じか時間がないからだという理由で読書をしない人が多かった。どちらの理由にしても読書に興味を持てば解決されることではある。しかし、その解決に至っていない現状が若者の読書離れを引き起こしている。若者は読書をする意味が分かっていない。そのためこのような機会があるときは是非、読書をする意味を取り上げるべきである。それと同時に様々なジャンルの本を取り上げ、紹介をすることが多くの人の関心につながってくる。

読書の勧めとして、読書の目知識や情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒントや生きる力を得ることである。読書のコツは音読や会話、積読をすることである。例えば、井上ひさし著の本はゆっくり読むと、速く読めるがある。読書は習慣化したり、日々の生活の中で続けたりすることが大切で、速読、平読、精読を

コメント [y31]: 文意が不明です。

コメント [y32R31]: 文章がおかしいですね。

使い分けたりするのもよい。また、読書しっぱなしではなく、読んだらそのことをもとに考えた自分の意見などを書き出してみたり、人に話してみたりするのもよい。読書のきっかけを作るには徳島大学附属図書館での取り組みであるライブラリーワークショップや阿波ビブリオバトルサポーターなどに参加したり、学生や社会人共同参加の読書サークル、またライブラリーや金曜の会などに参加することである。

今回の講座で大学生活の中で読書をすることで得られる影響もあると思うので、いろいろ本を読んでみようと思う。

今日の講義を簡単に言うと本を読み。様々な利点がある。というような内容である。しかし、私は今日の内容に納得がいかない。本を読むことによって、人間は想像力を豊かにする言っていた。それは事実である。しかし、あたかも本を読むことでしか人間の想像力は発達しないと言っているような内容であった。例えば A と B という人間がおりお互いは友達であるとする。A が B に「昨日夜に美人の人がいて髪が長くてスラッとしていた」という内容の話をしたとする。この時 B は A の話した特徴から女性の姿を想像する。このように人間は人と話している時に相手の話している内容から想像するという行為を行っている。このことから、本をたくさん読む人の想像力が本を読まない人より優れているということにはならない。むしろ常に多くの人とたくさんの会話をしている人のほうが想像力豊かであると言えるかもしれない。

また「読書は愛することと同じに…」という内容の話も納得できない。今日の講義で読書を好まない大学生に対して話している。読書が好きではないことが前提条件として存在している。誰もが自分のガールフレンドのことは好きである。好きなもののためなら時間がないなど言い訳をしないのは当たり前だ。しかし、読書をするのが好きではない大学生に対してガールフレンドの話と同じように時間がないことを言い訳にしますか?と言われても説得力がないのは言うまでもない。

以上のことに納得がいかないなので説明をよろしくお願いします。

今回の授業では読書について学んだ。読書は何となく大切だと思っていたが、何が大切なのかわからず、これまであまり読書をしてこなかった。しかし、この授業を受けて読書で幅広い教養や想像力、表現力を身に付けられることを知り、読書を始めてみようと思うようになった。近年は読書をする時間が減ってきているにもかかわらず、本の出版数は増えてきているということを授業で知った。電子書籍が増えてきているので本の出版数は減っていると予想していたが、増加傾向があることは意外だった。事前に実施されていたアンケートの読書をしない理由で格好悪いからと答えた人が少なかったのは読書時間を増やす余地があるということだ。大学で本を読む機会が増えて、本に親しみが持てるようにな

コメント [y33]: 本が想像力を養うことと、その他の行動が想像力を養うことは、両立可能です。

コメント [y34]: そういう趣旨ではありません。もちろん読書しなくても想像力豊かで、立派な人はたくさんおります。情報が氾濫し、映像があふれて、考える前にスマホで調べるといった傾向の現代社会において、読書で培われる想像力というのはますます貴重になるという趣旨です。

コメント [y35]: 説明不足だったようですが、もちろんこれは読書したいと思っている人についての喩えです。詳しくは参考文献をご覧ください。またこの授業では読書を好まない学生を前提にしていたわけではありません。そういう学生もいたでしょうが、読書が好きである学生や読書をもっとしたいと思っているが時間がないと悩んでいる学生も相当数いたはずですよ。

れば読書時間も伸びてくる。

今回は読書についての講義でした。読書の意義としては理解することができましたが、一つ講義を聴き終わった後に気づいたことは、読書をするのが良いという固定観念を小さい頃から植え付けられてしまったために、読書することに抵抗を感じるようになった過程があります。確かにスマートフォンなどの電子媒体などが昔に比べて大幅に普及し人々の暮らしにとって身近になったことも一つの要因ですが、だとしたらなぜ紙を通して読む漫画は子供達に今でも変わらず受けられているのでしょうか?この答えを納得のいくように解釈するためにはこうも同じ紙媒体でも違いが出てくるのを踏まえて読書にもっと明るいイメージ、すなわち自然と読書をするようにできる周囲の環境作りが不可欠である。例えば読書を無理やり強制するようなことはやめる、初めての人でも引き込まれるような本を最初にセレクトしてあげるなど、やれることはたくさんあります。もっと読書というものを身近に感じさせる努力をすることが今のご時世では重要である。

今回の総合科学入門講座は、読書の必要性について学んだ。詳しく言うと、大学でも、教養・専門を身につけるためには不可欠な教科書や参考書だけではなく、知識を広げて教養を高める本を読むことが大切とあること。そして、読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れることで、そして考えるヒント・生きる力を得ることである。事実、私も本を読む方であり、教養を身につけるように励んでいる。しかし、私は読書することだけが教養を身につける場ではないと思う。その理由として、テレビやネットで情報を入手しているため教養を身につけていないとは言えないからである。その上に、若者の活字離れは進んでいるとはいえ、SNSでは文章を読んでいており、ネットニュースなどの活字媒体を見ているため、読書量は少ないとしても、文字を読んでいるということから見てみると、昔とそう違いはないといえる。むしろ「若者は読書をしていないため教養がない。若者の活字離れが進んでいる。」などというのは的外れであり、ステレオタイプであると言える。最後に質問です。私は自分の興味のある本は積極的に読みますが、興味のない本を読もうとは思いません。それを強制されて読むことに価値はあるのでしょうか。興味のない授業は真面目に受けられない生徒がいるように、興味のない本は真面目に読まない人もいます。真面目に読まなかった場合、その人に教養が身についたと言えるとは思いません。

日本人はまじめな人が多く、勉強熱心でよく働く人が多いという印象を受けることが多い。その様なこともあって、外国の人々よりも読書に励み普段から教養をつけているとい

コメント [y36]:

コメント [y37]: 授業でも紹介したように、読書がそのまま絶対的に善であるとは考えていない人もいますね。まずはその固定観念から自由になることが大切でしょう。そこからだ学生時代に自分が主体的にする読書のあり方について考えてもらいたいです。

コメント [y38]: 誰が努力するのですか?

コメント [y39]: ○の位置に注意しましょう。

コメント [y40]: 教養の定義にもよりますが、たしかに読書しないから教養がないとはいえないね。活字離れについても、実は必ずしもそうではないということも紹介しました(朝読効果とか読書家の率は昔から変わらないというデータなど)ので、私自身もこのようなステレオタイプのことを主張したかったわけではありません。ただ読書する意味について考えるきっかけになればという思いからでした。SNSなどと読書の関連については、さらに調べてみるといいでしょう。

コメント [y41]: 読んで内容がわかる前に、どうしてその本の内容に興味があるかがわかるのですか?

コメント [y42]: たしかに興味のないことに取り組むことは苦痛ですね。まず興味のある本から読みながら、徐々に興味の幅を広げるというのはどうでしょう。学び研究する大学生活を豊かにするはずで。読書によって未知なことに触れることは、大学でこそ味わえる楽しい体験となるでしょう。

う印象もある。しかし、世界のランキングでみると 30 の国のうち 29 位という最低ランクの順位であるのだ。印象からかけ離れた数字であり、平均で日本国民は年に 4.1 冊しかよんでいないことになる。その中でも 70 代の人を読む本の冊数はワースト 1 位である。この結果は、70 代のお年寄りになると字が見えづらくなることがあるので、納得できる上仕方がないことである。また、ワースト 2 位は 10 代の若者である。10 代は高校生、大学生の年代であるにも関わらず本を読む数が非常に少ない。アメリカでは大学生に本を読ませる為に、かなり多くの本を読むという課題をだす。一方で日本では、そのような課題をだすことが少ない。また、読書の課題をだすとしても冊数が少ない。日本の 10 代の読書本数の少なさの原因は大学や日本の教育方針にもある。一方で、20 代の日本人は意外なことに比較的多くの本を読んでいる。理由は定かではないが、本を読むことで教養を付けることは将来に役立つため重要なことである。読書をするのは教養が身につくだけでなく、想像力、言語能力が身に付き思考力が確かになるという利点もある。また、ただ普通に本を読むだけでなく濫読、再読、会読などの方法で読むことも効果的である。

"5/12 読書の勧め

今回の総合科学入門講座は読書に関する話だった。初めに読書に関するデータを見た。大学生の 45%が 1 日あたりの読書時間が 0 というのが予想以上に少なかった。子供の読書離れが最近問題になっているし、大学生は飲み会やサークル、講義の予習・復習・課題、アルバイトなどすることが沢山あるので、60%ぐらいは 0 ではないだろうかと予想していた。読書は実際には経験できないようなことを疑似体験することが出来る。さらに、幅広い知識を獲得し教養を高めることができる。しかし、頭では読書は生活を豊かにすると分かっているとしても読書をするという行為は面倒なように感じてしまう。1 度読み始めたら読み込んでしまいが、本を手に取り読み始めるまでが面倒である。また、速読・平読・精読といった読書スキルを使いこなせるようになるまでに、たくさんの本を読み込まないといけない。小学生の時ぐらいから読書を習慣化している人からすれば、何も問題ないことであるが、習慣化してない人からすれば、大変面倒である。子供の読書離れが進んでいる現代においてこれからは、子供の読書離れだけでなく、日本人の読書離れと言う時代がくるように考える。読書離れは更なる格差社会を作り出すだろう。読む人、読まない人の知識の差は顕著に表れるだろう。そうならないように、**少しでも改善**するべきだ。

コメント [y43]: そのためには具体的にだれがどうすればよいですか？

" 読書の目的は「大学での教養・専門を身に着けるため」「知識を広げ、教養を高めるため」「読書を通して想像力を培い、言語能力も同時に培うため」そして、「考えるヒント・生きる力を得るため」である。

では、なぜ大学生もとい10代の学生たちは読書をしないのだろうか。
それを顕著にあらわすのが、大学生の一日の読書時間が0分である人が多いことである。
私は、それは読書をする習慣がないことと携帯・スマートホンが普及したことが原因である
と考える。
今では、スマートホンの10代の男性普及率が77.8パーセント、10代の女性普及率が84.8
パーセントとどちらも高確率である。

(<http://bizmakoto.jp/makoto/articles/1402/25/news102.html> 参照)

スマートホンが普及したことで、空き時間や通学の時間にスマートホンでゲームやSNS
をする人が増え、読書をする学生たちが減ったと考える。そして、こうしたすきまの時間
に読書をするのが減り、だんだんと習慣から消えていったのである。

この授業を受けたことで、読書をして得るものは大きいことを再認識したのだが、**良い
本・面白い本・ためになる本の選び方がわからない**。

どのように選べばこのような本にたどり着けるのだろうか。

次回ぜひ授業の初めの時間で教えてほしい。そうすれば、今まではどの本を読めばいい
か分からなかった人たちが、少しずつ読むようになり学生の上がると思うからだ。

今日の総合科学入門講座では、「読書の勧め」という授業だった。そこでは、読書の目的
や、読書のコツ、読書のきっかけについてがあった。今回の授業で私が賛成したい点は、「3、
読書のコツ」のところ、「アウトプットをしながら!」ということである。賛成したい理由
は、アウトプットをすることで、より本の内容がしっかり理解できるからである。受験ア
ドバイザーである和田秀樹によると「脳の記憶のメカニズムは、「入力→貯蔵(繰り返し復習)
→出力アウトプット」の3ステップがうまく連携して、はじめて使える知識として定着し
ます」とあった。(文/進研ゼミ高校講座 長島監修/和田秀樹 進研ゼミ高校講座による大学受
験生応援サイト 受験サポート NEWS 一夜漬け、丸暗記は卒業!絶対に忘れない「暗記法」
とは <http://kou.benesse.co.jp/news/benkyo/15052101.html>

2017/5/13 アクセス)このことから、読書をした後アウトプットをすることは、理にかな
っていると言える。

また、「2、読書の目的」で「読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同
時に鍛えられる」とある。このことに関しても私は賛成である。授業で例として挙げられ
たカフカの「変身」で主人公になった虫が何の虫であるかという議論があった。カフカ
の「変身」では主人公は何の虫であるかははっきりと書かれていない。そのため、主人公が
何の虫であるか想像の余地がある。カフカが想定していたものがその話の正解であるが、
読書は、クモやゴキブリ、テントウムシなど、カフカの文章を手掛かりに、自由な発想を
することができる。以上のことから、私は読書をすることで想像力が培われるという点に

コメント [y44]: その根拠は?

コメント [y45]: 生協その他で、本の推薦イ
ベントがたくさんある、と授業でも言って
いましたよ。

コメント [y46R45]: まずは自分が今関
心のある本、面白いと思える本を読み、その
本の関連で他の本にも手を伸ばして、読書
の幅を広げていくといいでしょう。面白そ
うな本に出合わないという人は、本屋や図
書館を歩いてみると自分が関心のある本が
みつかります。それでも見つからない場合
は、私の研究室にお越しください。

賛成である。

今回の授業での質問は、「おしゃべりな女」についてである。授業では「女はおしゃべりだ」という仮説を検討する時にデータを取ることが可能だ、としていた。そしてその理由を「たいていの現象は確率的」とした。しかし、「おしゃべりな」の定義は、どのようにして決められるのだろうか。どの程度「おしゃべり」であれば「おしゃべりな」人と認定されるのだろうか。それとも、このことを検討する際に、おしゃべりの度合いをあらかじめ定めておくのだろうか。

僕は今まで本をあまり読まないですし、今回の講義を受けても本を読むという気持ちはあまり湧き上がらなかったです。なぜなら講義でもおしゃべっていた通り本を読む時間もつたないのとスマホでだいたいの情報が解るからです。今回の講義で本を読むことは有意義だと教わりましたが、イマイチ本をたくさん読もうとは思いませんでした。

今回の読書を勧める件について、少し疑問を抱いた。どうして、読書というものは強制させられるのだろうか、と。教養を得るためというの分かるが、自由な時間を費やして読書をするということはつまり、読書=趣味や娯楽の部類であるということだ。ということは、読みたい人だけ読んで、他にしたいことがある人はそちらを優先すればいい。読書を強制させられるからこそ、読書に対して苦手意識を持つものも少なくはないはずである。

今回は依岡先生による読書についての講義があった。講義を受けて1番印象に残っていることは読書のコツについての話だ。特に3色ボールペン方式という本の読み方を実践してみたいと思った。赤・緑・青で客観的に大事、主観的にももしろい、客観的にも大事なところにそれぞれ線を引く読み方だ。線を引くために時間はかかってしまうが、しっかりと読むくせをつけることが出来るので良い方法だと思った。また、速読、平読、精読を使い分けることも大事だと思ったので、是非実践してみたい。

私は高校生の時に、今は受験で忙しいから読書は大学生になってからしようと思っていた。しかし、いざ大学生になると想像以上に忙しくバイトや勉強で読書のことなどすっかり忘れていた。学生が読書の大切さはわかっているが優先順位が低い、多忙で読書をする暇がないなどと言うのもうなずける。それに加えてわたしは、10代の読書離れには図書館のみならず本屋に足を運ぶ学生が減少しているのも理由のひとつだと推測する。4月末にオープンした徳島の大型ショッピングモールにも、5階建の中に本屋は1つでスペースも狭く、

コメント [y47]: 研究のデザインによります。ポイントは、「おしゃべりである」か「ない」かが明確に区別できる、観察可能な定義であることです。たとえば、「相手の話をさえぎった・ないし相手がしゃべっているにもかかわらずしゃべり始めた回数」などと定義すれば、明確に観察可能です。また、区別の分割線は、実験で何を明らかにしたいかによります。

コメント [y48]: なぜなのか、理由をはっきり示してください。

コメント [y49]: 文系理系を問わず、すべての学問の基礎は、本を読むことから始まります。読書は趣味ではなく、勉強する上で不可欠の手段です。

コメント [y50]: たしかに、趣味としての読書は強制すべきではありませんね。ただ大学で学び研究するうえで、本を読むことが必要でもあります。そうした学問をするためには幅広い読書とそれによって培われる思考力・論理力を、今のうちから身に付けていくことも大切ですね。また単なる授業の課題だけにとどまらず、自ら教養を付けようと思っている人には、読書は大切です。そもそも大学の授業や専門の研究において課される読書は強制ではないでしょう。大学に行くことは強制されることではないからです。大学にいる以上は、単に読書は趣味だといっているわけにはいかないでしょう。

オープンして間も無く行ってもほとんど人がいなかった。近所の本屋も続々と空き家になっていき、昔のような活気がなくなっている。友人が読書をしている姿をみることも少なく、スマホの普及による影響がとてつもなく大きいには間違いないだろう。そこで、多くの人がよく使う SNS で読書の時間を記入し、友達同士で競い合うような、楽しく読書ができる心がけをすることを推奨する。そうすれば友達もしているから自分も読書しようという気持ちになり、また対抗心が湧いてもっと本を読もうという気持ちになる。これで、少しは読書離れが改善されるだろう。

コメント [y51]: 「ブクログ」「ブックルック」といった書評ブログもありますよ。

今回の授業では、依岡教授による読書の勧めをきいた。読書の目的とは、知識や教養を高めることであつたり想像力と言語能力を鍛えることなどであるそうだ。これらは自分たちでもわかることであるし、皆基本的に読書が悪い影響を与えるという考えはしないと思う。しかし、読書に対してネガティブな主張をする人がいるということは今回初めて知った。

そして、読書の仕方やコツも教わった。音読、会読、濫読、再読など、読み方に関する言葉だけでもこのようにたくさんあることから、昔から本を読むことで学習することがいかに多かったかがうかがい知れる。

個人的に、本を読むこともたらされるよいことは美しい言葉と出会えることだと考えている。美しい言葉と出会うことで、想像力はもちろん心も豊かになり、自分の美的価値観を形成することができるからだ。自分の美的価値観をもっていれば暮らしの中で芸術を楽しむ心のゆとりができる。

自由な時間が有り余っている大学生のうちに、生活のなかに読書をうまく取り入れ自分の世界を広げたい。

今回の授業は、前回の小テストの解答・解説と、読書の勧めという内容だった。

小テストに、「女はおしゃべりだ」という仮説を検証するために必要なデータを選ぶ問があった。その中で、「4 おしゃべりかどうかは人それぞれなので、検討できない。」という選択肢が間違っている理由の解説があったが、正直、ロシアンルーレットを例に用いた説明はよくわからなかったため、もう一度説明して欲しい。

コメント [y52]: どの部分がどうしてわからなかったのか、あなたはどのように考えているのか、説明してくれないと、まったく同じ説明を単に繰り返すだけになります。

読書の勧めでは、事前に回答したアンケートの結果について、読書クイズ、読書の目的、読書のコツ、読書のきっかけとなるイベントや場所の紹介を学んだ。

読書アンケートでは、1ヶ月の平均読書冊数が、1冊または読まないと回答している人が大半であることに驚いた。さらに、読書クイズの中に、世界の週間読書平均時間の日本のランキングを当てるものがあったが、日本が29位であることには驚いたし、1位がインドであることも初めて知った。

また、世代別読書率比較のデータでは、70代以上の次に10代の割合が低かった。学生が読書をしない理由として、多忙であることや読書の優先順位が低いということが挙げられていた。私は読書が好きで小学生や中学生の頃はよく読書をしていたが、高校、大学と年齢が上がっていくにつれて読む頻度は少なくなっている。特に大学では、慣れない一人暮らしが始まったことで自分で家事などをしなければならないし、課題やサークル活動を優先してしまい、読書の優先順位が低くなっていることを実感している。しかし、「読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」という教えから、読書の大切さを改めて知ったので、これからの大学生活の中に読書の時間を確保する努力をしていきたい。

小学生の頃から課題図書を設定されたりして、読書を強要されてきた。正直なぜ本を読まなければならないのかわからなかったし、大して興味のない本を読まなければならないのは、正直苦痛だった。

課題図書は冊数が限られているので、当然取り合いになる。少なくとも、私が本をあまり読まなくなったのはこの時期のトラウマが原因である。また授業の中で「読書時間は作れる」という話があった。まさしくその通りではあるのだが、読書が娯楽であるという前提が私の中に無かったためか、**違和感**を覚えた。

今回の講義では、読書の意義について学んだ。導入の部分では、日本の読書事情の深刻さを学んだ。出版社数や書店数、本の売り上げの低下、読書ランキングでは29位、アメリカと日本の学生では、四倍以上読書数に差があることなど、読書の現状を知ることができた。特に関心を抱いたのは、日本の学生はほとんど本を読まないということだ。本を読まない理由には、情報源は主にスマホである。多忙であるといった理由が多かった。スマホの普及によって、時間の合間に読書ではなく、スマホをいじるようになったのも原因の一つとして考えられる。この問題を解決するためには、意識的に読書をしようと思わせることが必要であると考えた。そのためには、読書を習慣化させることはもちろん、本に興味を持ってもらうことが不可欠である。本に興味を持つためには、教授の勧める本や自分が興味を持っている分野に関係した本を知ることが必要である。そういった情報を自分から探す姿勢も大事だが、情報を提供していけばさらに効果的だろう。

本を読んで感じたこと、考えたことを誰かと共有する機会があれば、読書から得た知識を自分のものとして定着させることができる。課題図書を出し、それを読んで考えたことをグループディスカッションさせ、自分とは異なる考え、視点に触れることができる。読書を人との交流につなげることで読書の可能性をもっと広げられると考えた。

コメント [y53]: 具体的にどういう部分に
どういう感覚を持ったのか説明してください。

コメント [y54]: いいやり方ですね。私もゼミなどではそうしています。

今回の講義は読書についての話だった。読書に関するデータによると大学生で一日当たりの読書時間が0分である人の割合が4割以上となっている。読書をしない理由は情報はインターネットから手に入るからとか時間がないからとかいくつかあった。しかし、読書をすることは重要だ。なぜなら、読書することによって知識や情報を深められたり、想像力を培えたりすることができるからだ。そして、読書によって得られたものは考えるヒントや生きる力を与えてくれる。また、読書をするコツは3つあり、習慣化すること・読み方を使い分けること・読んだ本についてほかの人に話してみるということだという内容だった。

講義中に示されたデータの中に世界の読書好きランキングというものがあった。このランキングの中で日本は30か国中29位。また、同様に講義中に示された日本の年代別の読書率によれば、10代は70代の次に低い47%だった。この2つのデータから日本の10代は世界の中でも日本の中でもあまり読書をしないほうであるとわかる。実際に私もほとんど本を読まない。それはわざわざ時間をかけて本から情報を得なくてももっと早くインターネットやテレビから知りたい情報を集中的に探し、得ることができると思っていたからだ。しかし、今回の講義で本は知識や情報だけを与えてくれるのではない、考えるヒントや生きる力を与えてくれるのだと学び、読書の大切さを再確認することができた。素早く情報を得られるという目の利益にとらわれず、長い目で見て大きなものが得られる読書を大切にしていきたい。

5月12日の授業では、読書の目的やコツについて学んだ。

読書の目的は「知識・情報を集めること、想像力を養い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」だと言われたが、私はこの中の「共通の記憶に触れること」の意味がよくわからなかった。誰と共通なのか、どんな記憶なのか、それに触れることで何のメリットがあるのか、というのをぜひ詳しく教えていただきたい。

また、読書することで文章力や言語能力が上がると言われているが、小中学生の教科の学力と平日読書時間の関係を調査した論文では、平日読書時間が長いからといって国語のテストの点数が高いわけではないことが示されており、一概に文章力と言語能力の向上のために読書をする方がいいとは言えないのではないだろうか。

もう一つ、読書のコツで言われていたギアチェンジをする意味は何だろうか。私はいつも普通に読んでいるだけで速読をすると逆にきちんと文章が追えなくて、結果内容がちゃんと頭の中に入らない。また、読書をするときにいちいち「ここはしっかり読んで、ここはさらっと飛ばして……」のように考えながら読むのではなく、わからなかったらそこだけを読み返してみるとか、辞書を使って読むとかその程度である。だから、ギアチェンジして読む理由がよくわからないので、これも先ほどの疑問と同様ぜひ理由を教えてください。

コメント [y55]: ぜひそうしてください。

コメント [y56]: 長田弘『読書からはじまる』からの引用だったのですが、それによると、知らない者が分かち合える記憶で、それを大切に、ゆたかにしていくかどうかで、私たちの生き方も豊かになりうるものである。そして、本の中にある共通の記憶とは、そこにそれぞれの記憶があつまっているところだ、と述べています。本にある「記憶」とは、私たちの生活や文化、歴史からくみとってきたものであり、私たちが孤立することから救ってくれるとも述べています。さらに詳しく知りたい場合は、この本を読んでみてください。

コメント [y57]: 「国語のテストの点数」で何が測れるのでしょうか？また、読書の価値は、国語のテストの点数だけなのですか？

コメント [y58]: 読書するときの問題として、集中できないことがあります。それに対するひとつのコツとして、読み方を変えてみるとよいという意味で紹介したものです。論説的な本か、エッセイか、小説かといった本の種類によっては、速読したり精読したりして違う読み方をしてもよいのではないかという意味です。実際、読書をしていて内容が頭に入らないときには、読み方を変えたり、その間に別の本を読んだりすると、頭がリフレッシュされることがあるからです。ぜひ試してみてください。

参考文献:村上功、学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究 C.読書活動と学力・学習状況の関係に関する調査研究 分析報告書、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/045/shiryo/attach/_icsFiles/afielddfile/2011/03/02/1302195_01.pdf、2017・5・13

今回の総合科学入門講座では、読書についての講義だった。現在、日本では本の新刊点数は増加しているが、販売数は減少している。つまり本は多く出ているが、買って読もうとする人が減っているということである。世界と比べてみても1週間あたりの読書冊数で日本は30カ国中29位と低迷している。日米の大学生を比較しても、アメリカは4年間で平均400冊、日本は4年間で平均100冊と大きな差がついている。若者の読書離れと言われているが、データで見ると本を読んでいる人の割合で20代が最も多い。1日でまったく本を読まない人の割合は増加している。本を読む人の割合はあまり変わらないので、読む人と読まない人の間で二極化が進んでいる。

では、本は何のために読むのか。読書の目的は知識を広げ教養を高めるためというのが一般的である。それ以外にも想像力を培ったり、共通の記憶に触れたり、考えるヒント・生きる力を得たりすることもできる。読書で得られるものは多い。しかし、同じ作者の本を読みすぎるとその作者の考えに染まってしまう、他の考えができなくなってしまうという意見もある。そこまで本を読むというのは相当なものなので、あまり気にせず積極的に読書をすべきである。

読書のやり方は声に出して読む音読や、みんなでまわしながら読む会読など様々である。またひとりで読むときにも小説は精読、論説文は目次や章の終わりを読み中身は速読する、論文や実用書はキーワードを読み取るリサーチ的な読み方をするといったように本の種類によって読み方を変える方法がある。

読書は空き時間にできるものである。読書は、移動中や休み時間などのちょっとした時間に本を開く、ということを経験し日々の生活の中で続けていく価値のあるものである。また「三上」といって馬上・枕上・廁上は物を考えるときにいい場所として中国では伝えられている。本を読み考えたことをアウトプットできればさらに良い。

徳島では読書に関するイベントが多く開かれている。積極的に参加し、楽しく本を読むきっかけになるよう活用するべきである。

読書は自分の興味があるテーマのものから読み始めるといいのではないかな。なぜなら、私はつい最近まで読書が嫌いであったが、読書レポートのために興味があつて選んだ本を読んで、もっとそのテーマの本を読みたくなったからである。しかしそのテーマの本を読みたいのであつて、他のテーマの本はまだ読みたいとは思わない。好きなテーマを読んでいく中で、他のテーマも読みたいと思えるきっかけはあるのだろうか。読書を続けて自分でも探していきたい。

コメント [y59]: 私も同意見です。とりあえず自分の関心のある本から初めて、徐々に読書の幅をひろげていったらよいと思います。

今回の授業では読書の有用性について学んだ。読書をすることで、知識・教養を深め、想像力を養うことができる。だから大学生は日頃から読書をする習慣をつけなければならない。しかし、私はちょっとした待ち時間や休憩時間など短い時間を使って本を読むということが苦手である。その後の用件や周りの音などがどうしても気になってしまうからだ。そのため読書は休日に自宅でまとまった時間をとって行うことが多く、平日は読書時間が0という日も多い。大学生活では、これまではなかった空きコマなどのすきま時間が増えたため、これからはそういった時間を読書にあてて本を読むことを毎日の習慣にするように心がける。

今回は読書についての講義だった。読書は知識や情報量を増やすことを目的としているが、それをただ鵜呑みにするのではなく、自分でしっかりと考えることが大切であると学んだ。また、読書のコツや読書のきっかけについても教わった。スマートフォンが普及され、いつでもどこでも情報が手に入れられるようになったので読書によって知識を増やす機会が少なくなった。しかし、想像力を培うことや考えるヒント・生きる力を得ることができるのは本の魅力であるので、本を読む習慣をつけていきたい。

今回の授業は、読書についてだった。本を読むのはもともと好きだが、最近の前よりも読む量が減ってしまっていた。スライドで出ていた学生が読書をしない理由ランキングの1位から3位までの理由が、そのまま自分の読書量の減少の理由になっているのだと自覚した。しかし、ダニエル・ペナックの『ペナック先生の愉快的読書法』(ダニエル・ペナック『ペナック先生の愉快的読書法』、藤原書店、2006年)や平野啓一郎の『本の読み方 スロー・リーディングの実践』(平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの実践』、PHP新書、2006年)で述べられているように、たとえ時間がなくても少しの間でも読書をするのは大切なことだ。確かに、本に限らず自分が検索したもの以外の創作物は全て他人によって作られているのだから、他人の考えであり言い換えれば「読書とは他人に考えてもらうことである」となるだろう(ショーペンハウアー「読書について 他二編」、岩波文庫、1983年)。しかしその他人の考えを知ることによって、自分にはなかった視点や意見を知ることができたり、知らなかった表現や言葉も学ぶことができるのである。だから、読書はするべきだという意見に賛成である。

今回の講義では読書の目的、またそのコツについて学んだ。読書を習慣化することはも

もちろん、アウトプットしながら読む、またその過程で知識・情報を深め、考えるヒントなどを得ていくことが重要であるとのことであった。自分が持っていた読書への認識ととても近いものがあったので、読書の重要性を再確認でき、とても有意義な講義であった。

講義の最初に「読書に関するデータ」についての話を聞いたが、そのデータの「読書の定義」がわからなかった。漫画や週刊誌などは「読書」には入らないのだろうか。漫画などから、「考えるヒント」や「生きる力」を得ることもあるだろう。また、漫画がきっかけで職業を選択した人も多数いる。もしも、漫画などが「読書」に含まれていないのだとすれば認識を改めるべきではないだろうか。

今回の授業では読書をする事の良い点と悪い点を習った。良い点としては読書をする事で想像力や言語能力が身につくということである。また、さまざまな人の意見を知ることで視野が広がるということである。私は読書の悪い点などないと思っていたが今回の授業で悪い点もあると知った。それは読書しすぎて自分で考えないようになるということである。しかし、そういった意見も読書しないとわからないためやはり読書は大事である。

私は本は読んだ方が良くわかっているのになかなか読めない。それは、集中が続かないからである。そして、静かな環境で本を読むのが寂しいし何か落ち着かないからである。そこで質問なのですが「どういった時にどのような環境で本を読んでいますか?そして一気にどれくらいの時間本を読むことができますか?」

今回の授業では、読書について学習した。現在は読書をする機会や場所が少ない。理由としては、情報源がインターネットになったり面倒くさいということ。また本屋さんや、古本屋さんが減り購入しにくくなっている。また、読書は教養を身につけたり、知識を広げるのに大切である。想像力を培い、共有の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることである。わたしは本をほとんど読まないで今回学習した読書のコツである習慣化することやギアチェンジして読むといったことを参考にしたい。いつも読書する時間がないと言ってやってこなかったけれどする時間がないのではなく自分が作ってないと分かった。大学生になり自分の時間を作れるようになったので、読書する時間をつくり知識を増やしていきたい。

「読書の目的は知識・情報を集めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」とあるが、それは学力の向上や知識を身につけることを目的としている人々の目的であるため、趣味として読書を楽しんだり暇な時間に読書を利用したりしている人々の目的とは言えない。実際に読んでいてそのような力を得

コメント [y60]: 出典が表示されていたら、その出典の方を参照する。

コメント [y61]: 「読書」の定義は、調査によっても異なりますがふつうは漫画は含めません。ちなみに毎日新聞の読書世論調査では雑誌、漫画本は区別して調査しています。今回はこのあたりを厳密にしていなかったですね。ぜひ調べてみてください。もちろん「漫画」から生きる力を得ることがあり、それがいけないなどということは、私も思いません。

コメント [y62]: 学生の時から現在まで、一日6~8時間ぐらいでしょうか。学生の時は下宿の机で読んでいましたが、現在は研究室のデスクチェアに寝転がって読んでいます(机で読み続けると首が痛くなるため)。

コメント [y63R62]: 主として、自宅や研究室ですが、外に出ているときには喫茶店や移動のためのバスなどでも読みます。ふつうの読書のときはリラックスして読みますが、専門書を読む場合はある程度姿勢を正して読みます。一気に読む時間は、30分から2時間くらいです。集中できなくなったら、別の本をあえて読んだりしております。忙しいときにはそれこそ「三上」で読書ということになり、細切れに読んでいます。

コメント [y64]: なんで?理由や根拠が不明。

コメント [y65]: 趣味で読む、楽しみで読むというのも読書の目的になりますね。「生きる力」ということに含めていたつもりです。

ることはできるが、読書をしている人々がそうした目的で読書をしているとはいえないのではないだろうか。

読書のコツとして「習慣化」がその中の一つとしてあげられていたが、これは少しずつでも読んでいくことができるため、他にやることができ多くあり少しの空き時間も利用したい学生などには効果的である。

今回の授業では、読書に関するデータを見たのち読書の目的やコツ、きっかけなどについて学んだ。データによると日本の読書時間は30か国中29番目に少ないとのことだった。特に、若者の読書離れが深刻で1日あたりの読書時間が0分という学生が4割超えるという調査結果も出ているようだ。

依岡先生は読書を勧めていたが、私は本を読む必要はあまりないと考える。そう考えるのは、読書の目的のひとつに知識を身に付けることがあげられていたがそれなら本ではなくパソコンやスマホでも得られるし、本に抵抗のある人でもスマホなど身近なものだと気軽に調べることができ学習するきっかけになり、また、インターネットにはひとつのことだけでなくたくさんの情報を得ることができるので結果的に本を読むより知識が増えると思うからである。

私は読書をほとんどしない。今日も読書時間は皆無だった。しかし、読書が教養を深めたり、思考力を培うために不可欠であることはわかっているつもりだ。私含め日本の学生は他国の学生と比べてみても読書時間が少ないことが今回の講義でよくわかった。友人と読書の意義について軽く語ることも高校時代にあったが、皆「読書は大切だろうな」と言いつつも、やはり読書時間は私と同じくほとんどない状態だった。「これはどういうことなのだろう」と当時は思ったものだ。今回の講義の「大学生が読書しない理由」で一番大きな割合を占めたのは、「情報源が本以外だから」と「その他に比べて読書の優先順位は低いから」が53%でタイであった。前者はやはりインターネットの普及が一番の理由か。知りたいと思ったことは、ブラウザで検索エンジンを立ち上げればすぐに調べられる。しかし、インターネット上の情報は正確性を欠くことも多く、玉石混濁である。本は執筆者や出版元など、出所を調べればある程度の信憑性を確信して読むことができるし、インターネット上よりまとまった情報を得られることができる。どういうことかと言うと、インターネットで情報を探する場合、ひとつのサイトでは情報として十分ではないことも多い。そういう時は次々とたくさんのホームページやブログを覗いていくわけだが、ここで玉石混濁だということところが仇になる。情報の取捨選択を誤ると、却って頭の中が混乱するであろう。だが、本の場合は最初に選ぶときに出所さえよく調べれば、同じ執筆者が掘り下げたまとまった情報がうまく得られる。頭の中で整理もしやすい。インターネット上のひとつのサ

コメント [y66]: なんで?理由や根拠が不明。

コメント [y67]: この「学生」にあなたは含まれるのですか?

コメント [y68]: 授業では、紙の本を読むのと、スマホなどで読むのでは効果が違うという本を紹介しましたので、参考にしてください。

コメント [y69]: 次の学生のコメントを読んでみましょう。

イトとひとつの本ではどちらが情報量が多いかも、火を見るより明らかである。このあたりがインターネットより本の方が良いと言える点だろうか。後者については、このように読書の重要性を改めて考えさせる機会を作り、どうにか各々の中で意識改革を少しずつ進めていってもらえないかな。

コメント [y70]: 分かりやすくまとめていきますね。説得力があります。ただ段落分けはした方がいいでしょう。

今回は読書について話を聞いた。世界の中でも日本人は読書をあまりしない。実際アンケート結果でも読書が習慣化している人は少なかった。通学の時間などの隙間の時間を読書につかって読書を習慣化した方がいいと言っていた。なぜなら、語彙力や想像力、知識が増える読書はたいへん有意義であるからだ。

ただ本を読むだけでなく、自分の意見などを書き出してほかの人と意見を交換することも良いそうだ。

読書は大切である。本をよく読むことによって得られることは多い。語彙力はもちろん、知らなかった知識得られること、物語を擬似的に体験できること、文章を書く力が身につくことなどたくさんある。私自身読書で知った言葉の意味や漢字も多い。また、読書はレポートを書くことにも役に立つだろう。どのような文を書けば説得力があるかを参考に出るからだ。

今日の総合科学入門講座では読書について学んだ。

読書をするべきかという問題では、「本は読まなくてもいい、本は親しむものである」という考え方が素敵だなと感じたし、共通の大切な記憶をもつということに魅力を感じた。読書の目的は知識や情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることであり、読書を習慣化するべきである。

どうすれば大学生が本を読むようになるかという問題では、速読・通読・精読というようにギアチェンジして読むということが大切だ。このように読み方を使い分けることができれば、多忙であっても読書に時間を割けるようになるかもしれない。自分とは異なる考えや自分には出来ない発想に触れ、本を通して生き方のヒントを得られる点が読書の何よりの魅力だと私は考えている。

今回の講義は読書に関するものだった。学生は、多忙だからなどの理由で本を読まなくなっている。読書の目的とは知識・情報を深めること、想像力を培い共通の記憶に触れること、考えるヒント・生きる力を得ることである。大学での教養・専門を身につけるためには教科書や参考書はもちろん必要であるが、知識を広げ教養を高めるための本を読むことも必要である。読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられ、

裏打ちされた思考力が確かなものになる。読書のコツは習慣化することであり、日々の生活の中で食事のように続けることが大切である。また、連続・平読・精読を使い分け、読書をしたら読んだままにしておくのではなく、読んだ本をもとに考えたことを書いたり、人に話したりしてみることも大切である。積極的に読書の「場」に参加することでより読書への興味が深まる良い機会になるので、ぜひ参加するべきである。

コメント [y71]: ぜひこうした「場」に参加してください。お待ちしております。

読書で得られる力は、十分なインプットとアウトプットをして初めて実感できる。確かな理解をしながら読むことで、本から得る知識が、いつしか意識に刷り込まれ自分のものにできる。読書は強制されるものではないが、多少なりとも読んでおいたほうが人生のヒントが増えるのは間違いない。何かを決断するときも、読書の力が自分の答えを支える根拠や自信になってくれるはずだ。そういう意味でも、本が嫌いなわけではないならば、はじめは意識的にでも読んでいくべきだ。本をまったく読まない人とそうでない人では語彙力や会話力に差が生じていると感ずることがあるのだがこれは本を読むことによって言語能力が鍛えられることが影響している可能性があると考えていいのだろうか？また漫画やドラマであろうと、言葉や情報に触れることで「本」を読むのと同様な知識が得られると思っているが間違っていないだろうか？

コメント [y72]: 授業で取り上げた酒井邦嘉や茂木健一郎、川島隆太などはそう主張しています。調べてみて下さい。

コメント [y73]: 「思う」を消して根拠を書こう。

今回の総合科学部入門講座では、アンケートによって今の徳大学生における「読書」というものの位置について知ることができた。授業前の事前アンケートによると、全く読まない人が総合科学部一回生全体のおよそ三分の一占めており、学生の生活の中で「読書」というものは生活の中で低い位置にあることが分かった。また、学生が本を読まない理由については優先順位がほかのものに比べて低い、多忙である、面倒、などといったものが挙げられていた。しかし、今回の講義を受けて改めて読書の重要性に気が付いた。講義によると、大学生こそ知識を広め教養を高めるためにも読書は必要であるとのことだった。確かに入学して一か月ほどたち、授業にも慣れてきたところで疑問に思うことも増えてきた。そういったときに、教科書だけでなく他の関連図書を読んでみる必要がある。だから、これから疑問に思ったことは、スマートフォンで手早く調べるのではなく、読書をしてしっかり学んでいきたい。

コメント [y74]: 想像力・思考力も鍛えられますね。

今日の総合科学入門講座は、読書の勧めという内容で学んだ。

その中で、読書をしたらしばなしではなくて、読んだらそのことをもとに考えたことを書いたり、人に話したりしてみるという事を言っていた。

私は、このことに大いに賛成である。

なぜなら、このようにすることで読んだ内容や自分が感じた事を整理することが出来るからだ。このことは、勉強における事と同じである。ただ単に教科書を読むだけでもある程度は理解できる。しかし、多くの人は試験前には教科書に線を引いたり、別のノートに要点をまとめたりするのではないだろうか。また、私は勉強した内容や要点について親によく話をしていた。これは私の経験からなのだが、このようにすることで、時間が経っても忘れにくいように感じている。

以上のことから、読書をしたら「アウトプット」することが大切であると言える。

今回は読書に関する講義を受けた。学生が読書をしないということが指摘されていた。確かに私もどこか苦手意識があり大学生になるまで本をあまり読んでこなかった。また、依岡先生がおっしゃっていたように、本は他人の考え方を知ることのできる手段として有効であり、読むことで知識や情報を得ることができるので、先入観で読まずに過ごしたことを後悔した。しかし、本に書いてあることすべてが正しいわけではない。学術的発想と書き方の授業で学んだように、複数の情報源を見ることを意識して、偏った見方にならないよう気をつける必要がある。うまく活用すれば、国語力や教養が身につくだけでなく、幅広い視点から物事を捉える力に繋がるだろう。

コメント [y75]: その通りですね。実践してください。

読書についての話を聞いた。本には「速読」「精読」など目的に応じた読み方があることを知った。読書をすることで知識を身につけることができることはもちろん、想像力を培うことで言語能力の向上も図れる。本を読むことはよりよく生きていくための力を身につけることだ。頭を使いながら読むために本は簡単な読みやすい本ではなく、少し読みにくいとを感じるくらいの本を選ぶとよい。難しい文脈を自分でわかりやすく解釈するうちに読解力を高めることができるからだ。日常的に読書に取り組むことがレポートを書くときの助けになるのではないだろうか。

今回の講義は「読書の勧め」というテーマで、読書の利点を教わるものだった。自分の普段の生活における「読書」とは何かを考えるきっかけとなった。私は、読書は特別嫌いなわけでもないが、普段読書をしようとは思わない。何故かと考えると、他のことの方が優先順位が上で、したいこと、しなければならないことをしている内に読書に当てる時間がない。また、スマートフォンや、パソコンなどで、自分の必要とする情報を得るため、読書をしない。しかし、今回の授業で読書に対する考え方が変わった。読書をすることで情報だけを得るのではなく「言語能力に裏打ちされた思考力」を獲得でき、脳を鍛えられることに気付くことが出来た。これからは読書を避けるのではなく、大学生のうちに読め

る物は読んでおこうと思うようになった。

日本の国際読書ランキングの順位は 30 か国中 29 位であり、また日本の学生の読書数はアメリカの学生の 4 分の 1 と世界の国々に比べて読書数が少ない。大学生が読書をしない理由は多忙やスマホの普及が挙げられる。読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、考えるヒント、生きる力を得ることである。読書を習慣化し、速読、平読、精読を使い分けたり、アウトプットしたりしながら読むことが読書のコツである。

自分は最近の小説はよく読むが、新書や過去の文豪の小説はあまり読まない。小説は自分が楽しむため読んでいるのだが、知識を深め教養を身に付けるためには、新書や文豪の小説を読んだ方がいいのですか。

今回の総合科学入門講座は、読書についての講義だった。現在の全国の大学生は「1 日あたりの読書時間が 0 分である」という人が 4 割を超えている。今年度の総合科学部の学生も 4 分の 1 の学生は 0 分、半分の学生は 30 分未満である。この結果は若者の読書離れを明確に示している。しかし読書は大学での教養や専門を身に付けるために必要不可欠であり、知識を広げ教養を高めるためにも大切なことである。また読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えることができる。以上のことから大学生は元より一生を通して読書をするべきである。私自身なかなかまとまった時間が取れず読書をする時間が減っているが、今回の講義でもあったように通学のバスの中や寝る前の時間を有効に使って読書を習慣化していきたい。そしてただ本を読むだけではなく、読んだ内容について考え、疑問を感じたことについてはまた別の本を読むということを繰り返し知識を広げ教養を高めていきたい。

1. 授業のまとめ

大学での教養・専門を身に付ける、知識を広げ教養を高めるためには本を読むことが大切である。

しかし、大学生協連のアンケートによると、一日当たりの読書量が 0 分であるという学生が 4 割越であることが分かった。学生が読書をしないのは、なぜか。

学生が読書をしない理由として、多忙、情報源はスマホ、読書は大切だと思うが、優先順位が低いなどが挙げられる。

多忙の中で読書をするためには、読書を「習慣化」することが有効であると考えられる。また、読書をより習慣化するため、「音読、会読、濫読...など」を使い工夫して読むとよい。

コメント [y76]: 新書はそれぞれの分野で権威ある人が書いていることが多いので、その分野についての入門として読むといいでしょう。ただし最近は新書・文庫ブームで、粗悪なものもありますので、注意してください。老舗の岩波新書や中公新書などから読むのが無難でしょう。

2. 授業に対する意見

今回の授業を通じて、読書は自分の知識や価値観、教養の幅を広げてくれるものであるということがわかった。しかし、授業でも取り上げられていたように私も「多忙である」という理由で、読書をしてこなかった。また、今までは読書をするきっかけがないから読書をしなかったという理由もある。

今回の授業や、その他の授業で先生方が、おすすめの本や、講義の内容に関する本を紹介していただくことが多い。この機会を無駄にしないように勧められた本の中で自分が興味を持ったものからでも良いので本を読むように心がけたい。

3. とある人の授業コメントを読んで

「レポートが普通の出来の時には「ここをこうすればなお良い」、完璧の時には「他の学生はここを見習うべき」という点を示して欲しい」という意見があった。私も、この意見に賛成である。

なぜなら、自分のコメントの改善点だけでなく、良かった点も知ることが、文章を書くことにおいて役に立つと考えるからである。また、どの部分がよかったか、どの部分が悪かったかを知ること、自分の伸びしろを見つけることができ、次のコメントに活かすことができるとも考えられるからである。

↑できる範囲で良いのでお願いします。

今回の講義は、読書についてだった。大学生の約 4 割が読書しない。米国の大学生と平均読書時間を比較すると、日本の大学生は下位だった。(5 月 12 日 スライド)そもそも、読書は知識を広げ、深める。また、想像力を培い、共通の記憶に触れて、考えるヒント・生きる力を得ることだ。そして、前回の講義を踏まえると総合科学部において読書は必須だ。では、なぜ読書をあまりしないのか。それは、読書の優先順位が他のことよりも低く、情報源が本以外になったからだ。しかし、そのようなことで読書を避けてはならない。そのようにすると、総合科学部においては大学生活を無駄にする。また、読書といっても種類がある。「音読」「会読」「濫読」「再読・反復読」などがあり、一回読んでもう読まない、静かに読む以外にも読書の仕方がある。読書を避けずに、積極的に読書に取り組もう。

私は読書を普及させるためには、依岡先生が講義中に述べられた米国式を取り入れるべきだ。指定した本を読まなければ講義に出席できない又は出席をしても講義の内容が分からないという方法だ。これは学生が読書をしなければならぬという状況を作り出す。しかし、それではますます読書をしなくなる学生が増加する。だが、そもそも、総合科学部では柔軟に、謙虚な態度で幅広い知識を得ることが目的だ。この本は苦手、嫌いなどと読まなかったりすれば、知識が偏重してしまう。また、社会に出ても読書をしなければならぬだろう。それは、職業にもよるが、読書をして、さらに知識を得なければ使い物にならない社員になってしまうからだ。知人から聞いた話がある。「これは無理だからと言って

コメント [y77]: 「授業に対する意見」でなく、単なる「感想」になっています。

1 でまとめた内容について、問題点や疑問点はないかを考え、どこがどうして問題なのか、疑問を抱いた理由や自分なりの解釈、その根拠を書くようにすると、よりよくなるでしょう。

知識を得ようとせずに現状維持で仕事を頑張ろうとする社員と苦手だが、知識を得て、さらに新しい仕事に挑戦しようとする社員がいたら、迷わず後者に仕事を任せる。そちらの方が会社にとって利益だ」という話だ。だから、本を選び好みしてはいけない。読書を避けようとしてはならない。このようなことから、米国式の、本を指定し、学生に本を読ませるといった方法を取り入れるべきだ。

1.まとめ

今回は読書に関する現状と、読書をするのがなぜ良いのかを教わった。

今の日本では、昔と比べると販売額や出版社数、書店数が減少している一方で出版数は増加している。これは町の小さな書店が減少していき、反対に大きな書店が売り場を拡大し多種多様な本を販売するようになったことを示している。

読書の目的は、「知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること(プリント1枚目より)」である。想像力が育つことは、想像をするのに必要な言語能力も身につけることであるので、思考力が確かなものとなる。

読み方には、精読、速読、平読といった速さを変える方法やボールペンを使って線を引きながら読んでいく方法などがある。目的やジャンルによってうまく使い分けると良い。

読書のきっかけとしては「ライブラリーワークショップ」や「阿波ビブリオサポーター」などのイベントに積極的に参加してみることが挙げられる。

2、意見とその根拠

若者の読書離れ、とあったが20代の人が10代であった2004年版、さらには1994年版などを用いて、私たちの世代が読書をしないのか、10代の人が読書をしないのかを明らかにすべきである。私たち世代が読書をしないのなら、スマートフォンの普及に伴う活字離れなどが影響するだろうが、日本人が10代の時はあまり読書をしないというのであれば、それは学校の教育法や宿題の出し方等に問題があるのだろう。それを示した上で論じるべきではないか。

2004年度版等を調べようと思ったが、冊子であるためインターネットでの閲覧は出来ず、時間がなく図書館にも行けなかったため調べられなかった。

ご指摘の点、私にとっても、いい問題提起になりました。授業でも申しましたように、データをかぎりでは10代の読書率が低いという点については私自身「おやっ」と思いました(説明不足でしたが、厳密にいうと、毎日新聞の調査では10代というのは、10代後半のことでした)。その理由を解明することは私の目下の課題でもあります。世代の問題なのか、10代(後半)特有の事情なのかということも検討する必要がありますね。現在の時点での私の見解をいわせてもらえば、手持ちの2010年の同調査でも同じ傾向が見られるので、ここからみるかぎりでは世代というよりは10代特有の問題のようです。一方で、授業で紹介した生協によるデータでは、学生(もちろん20代の学生も入っ

コメント [y78]: 私の授業(教養教育など)ではそうしており、毎週指定した範囲を読んでそれに対する疑問や質問を中心に授業を進めているのですが、そうすると多くの学生が登録しなくなっています。

コメント [y79]: 私の授業では、できるだけ学生が本を読むようなやり方をしています。

コメント [y80]: 根拠は? とはいえ、着眼点はよいので、ぜひ調べて論証してください。

ています)の読書しない率は2004年に比べて2014年では6ポイント上がっていますので、10代(特に後半)の読書率が低い理由として、現在の学生が本を読まなくなっていることも一つの要因であるといえるでしょう。したがって、10代後半が読書率はある世代の問題ではなく、近年において恒常的に低い傾向にある。だがそれに加えて、近年の学生の読書率の低下も10代後半の読書率低下をより強めていると、私は推測しています。

今回は読書の大切さについての授業だった。日本の読書数のランキングがとても低かった。月に2〜3冊という日本の平均月間読書数は少なくないと感じたが、それは娯楽として読む本の数であり、学生とした学びの姿勢で読む本の数としては少ないことが分かった。

今回の「読書の勧め」講座ではまず読書に関するデータから学生はなぜ読書をしないのか、という問題を問われた。全国の国公私立大学30校の学生への調査では、1日の読書時間が「ゼロ」と回答したのは49.1%、約5割にも上り、読書の平均時間も24・4分と現在の方法で調査を始めた2004年以降で最も学生の読書離れが顕著となった結果であった。(『朝日新聞』、2017年2月24日、www.asahi.com)。このように学生の読書時間は減っているが、なぜ私たち学生は読書をしないのか、そして読書の目的とは一体何なのだろうか。「読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」である。これは全くその通りである。多くの本を読むことによりその本の中にある知識に触れることができる。そしてどの本の中にも今まで自分の中になかった知識・情報、考え方や教訓が存在する。本を読むことがイコール自分の知識を増やすことであるということはおそらく、だれもが納得し理解している。しかし、自分もそうであるが私たち学生にとって読書は日常的なものではない。

では何故読書が私たちにとって日常からはかけ離れたものになっているのだろうか。小学校の頃から読書はいつでも推進されてきたし、読書週間と呼ばれるものや読書ビブリオバトルといった実際に参加できる形式で行われるものもあった。しかし、それでも読書は私たちの中で「日常」に行われるものとして根付くことはなかった。その理由は、多くの人にとって「読書」が自分の中での優先順位が低いからではないだろうか。読書に親しむための催し物が企画されていても、興味を持つことも参加しようという意思もなかった。自分がしたいことと「読書」の優先順位を比較して、どうしても「読書」を下位に置いてしまう。自分のしたいこととは、よく若者の活字離れの原因として挙げられるスマホ・ゲームなどの娯楽や、バイト、部活、友人との遊びなどである。

読書は自分自身のためにも行った方が良く、すべきだということは常に感じてきた。なによりも読書はただ情報や知識を得るためだけのものではない。「あわただしい日々の生活の中に、自分自身で作るゆったりとした読書の時間は、どんなにささやかであっても、かけがえのない人生のゆとりだろう。」(平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの

実践』、PHP 新書、2006 年、8 項)、とあるように読書は知的欲求を刺激し、私たちに人としてのゆとりをもたらす。またペナックの、読書をする時間と恋人を愛する時間を同義という意見からも読書が「人生の時間」を広げるための手段であることが分かる。恋人を愛することは別に誰かに義務づけられて行うことではなく、それが当たり前であるから行われるものである。つまり読書は、「習慣化」することが必要なのだ。だが、今までの読書を敬遠してきた生活から考えてもそう言われてもすぐに習慣化することは難しい。

だが、私たちには今「読書レポート」などのいくつかの課題のため、絶対に読書をする必要性に迫られている。それは自主性も存在しない「義務」かもしれない。だが、そこに本人の「読書を習慣化」するための意思が絡んでいようとなかろうと、本を読み、そこから得た知識や経験は本物である。図書館へ行くと自分を取り囲む途方もない本の数に圧倒されると共に、知的な好奇心が湧き上がりつい目についた本を手にとってしまう、という経験をだれしもしたことがあるのではないだろうか。私たちが読書の道へと足を踏み入れるきっかけとなるこの課題、それがたとえ「義務」から始まっていたとしても、このチャンスを生かす他はない。

コメント [y81]: 学生みんなが、そのように理解してくれたらいいのですが。

私は今回の総合科学入門講座で読書について学んだ。読書というものは知識を深めるだけではなく、想像力を培い、共通の記憶に触れて考えるヒント生きる力を得るものということが分かった。学生はバイトやサークルなどで忙しいし、スマホによるネットの利用で情報を素早く得ることができるため、優先度が低くする暇がないというが、これらのメリットを考慮すると読書の時間をつくり、読書をする価値は十分にある。また最初の内は読書になれないかもしれないが、通学の時間、講義の間の休み時間や寝る前などに読書の時間をつくり継続していくことで読書が生活の一部となり習慣になる。そして読書で得たものは、これからの就職などの人生の大きな選択で活かされるであろう。

新たに知ったことは、本は必ずしも通読する必要がないということです。今まで、自分は本を読むことに慣れておらず本を読み切らないといけないという思いになってしまい読書することがとても窮屈でした。そこで、今回の 90 分の話の中で一番心に響いた言葉は「本にはたくさんの読み方がある」ということでした。通読することが読書のすべてではないと感じたのでこれから気軽に本を手にとることができるようになると思います。私もこの講習会が終わってから自分のカバンの中に一冊本を入れておくようになりました。少しずつですが、スマホなどを使う時間を読書の時間に変えることができます。高校卒業した時に、大学に入ったらどんなに忙しかったりしても読書すると決意していたので無理せず始められるような方法を知ることができて良かったです。

コメント [y82]: それはよかった、お役に立ててうれしいです、ぜひ読書を続けてください、

「読書の勧め」ということで依岡先生からお話をいただいた。大学での教養・専門を身につけるためには読書は不可欠であり、知識を広げ、教養を高めることにもつながる。また、「読書を通じて想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられる。すると、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになる」(酒井邦嘉『脳を鍛える読書』、実業之日本社、2017年)とあるように、思考力の向上にもつながっている。

しかしながら、現状として徳島大学の学生たちにも、本を全く、または殆ど読まないという人は多い。確かに、知識を広げることや、思考力を向上させるだけなら他の方法もある。しかし、そうであったとしても学生は読書をすべきである。

そう考える理由は、読書をする中でストーリーの中で起こった出来事を疑似体験できるからである。人間の人生の時間は限られており、実際に体験できる出来事は数少ない。また、お金もかかる。しかし、読書であれば、その2つを抑えて疑似体験をすることができる。さらに、若い時に得た考え方や体験により見聞を広めることは、その後の人生を豊かにする。

以上の理由から、**学生は読書をすべき**である。

コメント [y83]: 具体的にどのようにすれば読書しない学生が読書するようになりま
すか？

今日は主に読書の目的やコツなどについての講義を受けた。読書についてレジュメによると、大学生で1日あたりの読書時間が0分の方は4割を超えている。大学生で読書をしていない人が多いということがよくわかる。そこで読書の目的について学んだ。読書は大学での教養、専門を身につけるためには不可欠である。知識を広げ、教養を高めるために本を読むということはとても大切である。読書の目的は知識、情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント、生きる力を得ることである。しかし、日常的に読書の習慣がない人にいきなりこのようなことを言っても、読書の大切さを理解してもらうのは難しい。興味のない話を延々とされているのと同じに感じる。そこで読書のコツについて学んだ。まず、読書は習慣化することが大切だ。食事をするのと同じように読書も習慣化する。さらに、速読、平読、精読を使い分ける、アウトプットしながら読むなどすると読書が苦ではなくなる。徳島大学附属図書館ではライブラリーワークショップや阿波ビブリオバトルサポーターなど読書のきっかけをつくることのできる取り組みが行われているので参加してみるとよい。

大学生の1日の読書時間が0分の方が4割を超えていると学んだが、実際に私も1日の読書時間はほぼ0分だ。読書の大切さを十分に理解していなかった。そこで高校時代のことを思い返してみた。読書ではないが、教科書を読んで得た知識は今でも頭に残って自分の知識となっている。本にはたくさんの情報があり、読むことで自分の知識にすることができる。大学生になったら授業で学習したことだけを知識とするのではなく、いかに多くの知識を身につけるかが大切となってくる。だから、これから先読書することは必要不

不可欠なのである。今までの自分の読書に対する考えを改め、これからは積極的に読書をしていく必要がある。

今回の授業は読書についてだった。事前にとっていた読書についてのアンケートの結果から読書をしないという学生の数は全国平均よりは少なかったものの無視できないものになっていた。

まず読書についてのクイズを行なった。日本の書籍新刊点数は増えているが売り上げは下がっており、書店数も減少していることを学んだ。理由としては本があまり売れていないことと、大型書店が規模を拡大して個人の書店が経営困難に陥っていることが挙げられる。また日本の読書好きランキングは30カ国中29位で、日本とアメリカの大学生の4年間での読書数はアメリカが約400冊で日本が約100冊である。

読書は大学での教養・専門を身につけるためには、不可欠であり教科書・参考書はもとより知識を広げ教養を高めるためにも大切である。読書は大切であるという学者がいる一方で、「本をありがたがって、読みすぎると、心の近眼になって、ものもよく見えなくなる」(外山滋比古『乱読のセレンディピティ』、扶桑社文庫、2016年)のように読書について否定的に書く人もいる。今回の授業では読書について肯定的な意見の方が多く取り上げられていた。

次に読書のコツについて学んだ。「音読」「会読」などの読み方を聞いたが、ポイントはまず食事のように読書を日常化する。速読・平読・精読を使い分けながら読む。読書することで得た知識を紙に書いたり人に話したりしてアウトプットする、の3つである。

最後に大学で取り組まれている読書の機会を作る活動について聞いたが、初めて聞くものばかりであった。

今回の授業はプリント内容は素晴らしいものだと感じたが話し方とスライドは聞きにくく見づらいものであった。スライドの背景の色を黄土色ではなく白にして、グラフの文字も大きくする方が見やすくなり、より良い授業になる。そうすることで最後に時間に余裕を持って聞くことができるだろう。

コメント [y84]: 申し訳ありません。グラフの作成は準備不足でしたので、グラフが見づらかったですね。できるだけ分かりやすくしていきたいと思います。

今回の総合科学入門講座では、近年大学生の読書時間が減少している背景から「読書の勧め」についての講義を受けた。はじめに、今年度の徳島大学総合科学部の学生の読書アンケートの結果を見て、3割近くの学生が1日の読書時間が0分であり、同じく3割近くの学生が1ヶ月で全く本を読まないということを知った。次に、読書の目的は「知識・情報を深めること」「想像力を養い、共通の記憶に触れること」「考えるヒント・生きる力を得ること」であり、読書をするコツとして「習慣化する」「速読・平読・精読を使い分ける」「アウトプットをしながら読む」ということを学んだ。そして、私たちの周りには大学図

書館での取り組みを始めとした多くの読書のきっかけがあることを知った。

私は今回の講義を受けて、大学生が読書をする上で大切なことがあると考えた。それは、「積極的に本を読むこと」である。これには、「積極的に本を読む時間を作る」ということと「積極的な姿勢で本を読む」ということの2つの意味がある。

まず「時間」に関してである。今回の読書アンケートの「読書をしない理由」という項目では、「多忙」「情報源が本以外(スマホ等)」「面倒」「孤独」「暗いイメージ」「かっこ悪い」「優先順位が低い」という理由が挙げられていた。確かに大学生は、勉強はもちろんそれ以外の多くのこともやらなければならない、読書をする時間がなかなかとれないという人も多くいる。しかし、それは単なる言い訳に過ぎず、実際は読書をする時間はあるもののそれを他の娯楽等の時間として使っていると自分や周りを見て気付いた。また、「読書には暗い印象がある」ということについては、確かに高校までを振り返ってみても、教室でずっと読書をしている人は「真面目」「暗い」と言われ敬遠されがちだった。しかし、そのような人が授業で発表する際には時々皆が知らないような知識を持っており、クラス中を驚かせていた。したがって、まずは「読書=暗い」という考えを周りが持たないようにすることで皆が読書をしやすい環境を作り、今まで他のことに当てていた時間を少し読書に割り自分から本を読む時間を見出すことが重要である。

続いて「姿勢」に関しては、読書には自主的な姿勢が求められる。確かに、授業で出された課題として本を読むことや学校で決められた時間に読書することは、本を読む習慣がつくという点では良いことである。しかし、高校までを振り返ってみても、読書感想文として読んだ本や朝読書の時間に読んだ本等は、一応最後まで読んだものの自分自身の中に残る知識や考えがあまりなかった。そのため、本を選ぶ際から自分の関心のある本を選択し自分の意志で読書をすることで、自分の実になる読書を心がけるべきである。

今回の講義全体を通して、私は今まで読書に対して「面倒」という印象を抱き自分から読書をしようと思ったことはなかったが、読書には「大学での教養・専門を身に付ける」「想像力・言語能力・思考力を培う」といった多くの目的があることを学び、読書に対する興味が少し湧き実践してみようと思うことができたため、とても良い機会となった。近年大学生の読書離ればかりが目立っているが、その状況においても1日2時間、1ヶ月に7冊以上読書をする人も少なからずいるため、私もそのような人たちに追いつけるように読書を習慣的にできるよう心がけていきたい。

コメント [y85]: それはよかった。うれしく思います。

今日の授業は「読書の勧め」について学んだ。まず大学生は1日の読書時間が0分の人が4割もいる。ではなぜ大学生の半数以上が読書をしないのだろうか？

時間は今まで以上にあるはずなのにになにかと理由をつけてしない学生が多い。

読書の目的とは知識を広げ教養を高めることだと学んだ。読者を通じて想像力を培うことができれば言語能力が鍛えられる。そして言語能力に裏打ちされた思考力が確かなもの

になるということだ。なので学生は今のうちに読者をするのが必ず将来役に立つようになるということになる。なので自分も時間があるときは出来るだけ本を読んでいきたい。

今回の授業をきっかけに読書の目的や、読書をする事で得ることができるものが分かったが納得はしていない。そもそも読書をする目的は一人一人異なっている。授業では読書の目的が教養や知識を深めると言っていたが、例えば、小説の話がおもしろいから読書をしているだけでそこから教養を得ようとしていない人も大勢いる。今まで読んだ本の内容、題名ですら覚えてない人もいるぐらいだ。このようなことから読書をして教養や知識を本当に得ることができるのだろうか。読書をして書かれていることに対してどのように感じるかも一人一人異なっている。だから読書の目的は何であるかを定義することはできない。読書はしてもしなくても良い。もしするのなら、目的などに縛られず自由に好きな時間に好きな本を読むことが一番大切である。

今回の授業では、読書についての話を聞いた。パワーポイントでグラフや表が示されていたが、読書をしている学生がとても少なく、時間も短かった。それと、海外の大学生は4年間で400冊もの本を読む、と聞いて大変驚いた。私は、読書が好きな方だが受験のためにしばらく控えていたまま、最近でもあまり本は読んでいない。周りの友人にも本を読んでいる子は少ないように感じられる。携帯電話が普及したことで、空き時間に本を読むということが減ったのだろうか。

先生方は本は買って手元に置いておくべきだとおっしゃっていた。私も、何度も読み返すことができるし、賛成なのだが何冊も何冊も買っていると置き場所に困ってしまう。置き場所が無いことも、本を買うことを躊躇させ読書数を減らす原因になっているのかもしれない。

今回の授業では、読書の大切さについて学んだ。世代別読書率比較のランキングでは、20代が1位なのに比べて10代は最下位から2番目だった。私たちの世代はやはり読書をする人が少なかった。読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることであるのに10代の読書率が低いということは、私たちには知らない世界がたくさんあるということである。そのまま社会に出ていくので最近の若者は何も知らないと言われるのだ。

しかし、私たちも読書をしたくないからしていないというわけではない。そのような文化に触れる機会が少なかったからだ。読書をしたいと思っても毎日の生活の中でいつ読書のために時間をとればよいのか分からない。ここに原因がある。だから、今回学んだよう

コメント [y86]: 読書の目的として、「生きる力」を私は挙げたが、「楽しむ」ということももちろんそこに入っているのです。授業では、むしろ読書には知識・情報を得るだけではない意義もあるということにも触れておりますので、参考にしてください。

コメント [y87]: 論理的に筋が通っていないようです。「単に面白いから読書をする人がいる」ことから、「読書から教養が得られない」ことは帰結しません。

コメント [y88]: ここも論理的に筋が通っていません。

コメント [y89]: どこからこの結論が帰結するのか不明です。

コメント [y90]: まずはそうしてみるといいでしょう。好きな本から読書の幅を広げていくときに、今回の授業が多少なりとも役に立てばいいのですが。

コメント [y91]: 私も本の置き場に困っている一人です。

に食事をするのと同じように習慣化するというのを 1 番大切にしてみよう。たくさん読書をする機会が増えていけば良い。

今回の内容は読書についてである。まず、読書に関するデータを見た。読書を 1 日 1 時間以上する学生の数はほぼ変わっていないが、一日全くしない学生の数は増えている。読書をする目的がわからず、優先順位を低くしている学生も多い。読書の目的とは、知識・情報を深めるだけでなく、想像力を培い、考える力をつけることだ。読書をしてそれで終わるのではなく、読んだ内容について考えてみることも重要になる。読書は続けることで習慣化する。忙しい中でも少しの時間を利用すると読書の時間を取ることはできる。また、小説・エッセイは精読、新書などの論説文は速読というように読み方も変えたり難しい内容の本を読んでみたりすることに挑戦するべきだ。

読書を日々の生活の中に入れてありますが、毎日どれくらい読めばいいですか。

コメント [y92]: 読める限り最大の時間でしょう。

今回は読書についての講義だった。今日の学生はあまり読書をしない。また読書をする中で、大学での講義の知識、教養を広げたり、深めたりできる。また考え方のヒントや生きる力を学ぶことができる。様々な偉人が読書について名言を残している。読書をする際にはコツが存在し、まずは習慣化することである。読む際には、速読、音読、精読といった読み方を変えるのも良い。また、読んで手に入れた知識を誰かに伝えることも大切だ。

コメント [y93]: 読書の時間を一日の生活の中に組み込むことは、自分自身の生活を見直すことになります。その意味で、どのくらい、というのは、自分できめていけばよいでしょう。とりあえず 30 分でも 1 時間でも、読み始めたらいかがでしょうか。

その中でも読み方を変えるというのはとても大切なことだ。私自身読み方を変えることで得られる効果というものを実感したことがある。それは高校での勉強だ。現代文のように情報量の多いものを迅速に処理する際には、要点を絞り流し読み。英語や古文のような馴染みの薄いものに対しては音読を何度もした。英語の長文ともなれば速読、精読、音読と複数の読み方を実践した。これらの読み方を繰り返すことで実際に理解も深まった。したがって、読書において読み方の変化というものはとても重要なことである。

本日の授業では読書について学んだ。

大学生の平均読書時間の短さについて、スマートフォンの利用などの他の情報機器の使用が挙げられていたが実際その通りである。自分もスマートフォンを所持していなかった中学生の頃は月数十冊は読むほどの読書家であったが、今ではスマートフォンに夢中ですっかり本を読むのをやめてしまった。ではどのようにすれば読書量が増えるのであろうか？読まなくなったそもその原因であるスマートフォンを手放すという単純明快な解決方法もあるが、現実的に考えて難しい。そこで、スマートフォンで読める電子書籍の普及を進めるべきである。紙媒体の良さを否定するわけではないが、現代の若者にはちょっとした空き時間で

読める電子書籍の方が合っている。また、月に一冊は読んで感想をノートに纏める等の簡単に達成できる目標をたて、読書を習慣化することで学生の平均読書量を増やせる。

今回の授業では、読書について学んだ。学生が読書をしないこと、読書は知識・情報を深め、想像力を培い考えるヒントや生きる力を得るために必要であるということ学んだ。

私は普段全然本を読まない。今回の授業で読書の必要性は理解したが、だからと言って堅苦しくて難しい本を読もうという気にはなれない。私のような、読書に馴染みがない学生が多い中で、論文のような難しい本を勧めても学生の心には響かないだろう。だから、読書を始めるのに読みやすい小説を勧めてみてはどうだろうか。確かに、私たち大学生にとって難しい文章を読むことは、知識・情報を深め想像力を培い考えるヒントや生きる力を得る、という読書の目的にもそい、学習や進路を考える際にも必要である。しかし、普段読書をしない人間にとっては、難しい本を読んで更に読書が嫌になってしまうだけではないだろうか。それに対して小説は、ストーリー性があるので引き込まれやすく、語彙についても難しいものも使っているため学習にも向いている。よって、今回の読書についての授業の際には、新書や論文のような難しい本よりも、小説を勧めたほうが良いのではないだろうか。

コメント [y94]: きっかけとしては、いいと思います。

今回の授業内容は読書であった。本を読むことは知識と情報を深め想像力を培うことを可能にする。私はこれまで、大学生がどれほど本を読んで過ごしているのかということ想像したことはなかった。しかし、入学してからレポートの書き方を学んでいるうちに1つのレポートを書くだけでも何冊も本を読み多様な情報源を得る必要があることを知った。レポートを書く際だけでなく、授業の内容をより理解しようとすれば関連した本を読むべきである。こうしたことから、大学生は相当な量の読書量を要求されている。高校までだと読書を勧められてはいたが読書感想文を除いて本を読まなければ提出物ができないということや授業が理解できないということもなかった。もはや教科書がすべてではないということだ。授業で使う教科書とは別に自分の力になる本を読んでいかなければならない。本を読んでいくうちに情報が正しいかどうかを判断する力もついてくる。知識を深めることや情報を判断する力、想像力が学生に求められているから読書をするのだ。

さらに、本の中に書かれていることは作者とその本を読んだすべての読者たちの「共通の大切な記憶」である(長田弘『読書からはじまる』、日本放送協会出版、2006年)。文明が生んだ本という人類が共有できる記憶に無関心であるべきではない。私たちは積極的に共通の記憶に触れ、得た情報を社会に貢献する力に変えていく必要がある。

今回の授業では、「読書の勧め」と題して、読書の目的やコツを学んだ。2014年の全国調査で、約4割の大学生が普段から読書をする習慣が身に付いていないことが分かった。確かに、高校までは朝の会やHRなどで読書の時間が設けられていて、受動的ではあるが、読書をする習慣が身に付き、結果的に読書は楽しいと感じるようになると思う。対して大学生になると、自分で自分を管理しなければいけないようになるため、当然のことではあるが朝読書の時間が設けられていない。そのことを考えると、自分から進んで読書することが難しかったり、読書をしようという気が起きない子もいるかもしれない。どちらかというと私もその一人で、大学に入学してから読書に費やした時間は、ごく僅かである。しかし、大学生になるとレポート課題を出されることもあるため、嫌でも本を読む必要がある。本を読めば、自分とは違った新しい考えに出会うことができるし、思考力も高められると思う。まずは一日一時間を目標に、読書を始めてみようと思う。

今日の授業の内容は読書についてだった。今は出版不況や活字離れの影響で本屋での販売数や書店の数などが減少傾向にあると言っていた。また、日本は読書大国と言っておきながら、世界の読書冊数ランキングは30カ国中29位だったり、アメリカの大学生と比べても冊数には大きな差があったりするということを知った。日本人でも10代は本を読む習慣があまりついていなく意欲もあまりない。私もあまり読書は進んでしていなかったものでこれからはまず、1ヶ月で2,3冊は読むように心がけるようにしたい。

読書は課題で出してしまったら強制的に読まないといけなくなるので、読書を楽しむことができなく、読書はただ面倒なだけの存在になってしまうのではないだろうか。また、課題を直前の夜まで溜め込んだ場合、深夜に無理に読んでも頭に入らないから読んでも意味がないのではないだろうか。だから読書を課題として出すのはあまり良くないのではないだろうか。

近年、大学生の読書時間が減りつつある。主に多忙であることため、読む時間がない人が多い。そんな中、いかにして大学生に読書をさせるかが重要となってくる。大切なことは、隙間時間を活用して、本をよむことである。最近の若者はスマホの普及に伴い活字離れが著しいと考えられているが、最近はスマホでも本を読むことができるようになっている。そのため、スマホを用いて、隙間時間に電子書籍で読書をするべきである。そうすれば、隙間時間にスマホで簡単に本をよむようになり、自然と読書の習慣が身につく。読書をすぐに習慣化することは簡単なことではないが、徐々に習慣化すべきである。

質問です。出版社によって出版する本のコンセプトなどの違いはありますか。どうして日本にはこんなにたくさんの出版社があるのかがわかりません。

コメント [y95]: 大学で本を読まされるのは、専門を身に付けるためであるから、授業で課題となるからといってそれは強制ではないでしょう。ここではいったん、楽しむ読書とは区別して考えた方がいいですね。

コメント [y96]: コメント y10 を参照。

コメント [y97]: 質問する理由や目的、自分なりの解釈とその根拠を書くようにしてください。

コメント [y98]: 得意分野は出版社ごとにあります。あまり有名ではなかったり、小さかったりといった出版社が存在すること自体は、多様な本を出すことができるということなら、よいことではないでしょうか。

今回の授業では、読書に関することについて学んだ。最近、学生があまり読書をしないようになってきている。読書することは、教養を身につけるためには必要不可欠であり、身につけた教養を高めたり、知識を広げるためにも必要なものだ。私はあまり読書をしないのだが、今回の講義で学んだ読書のコツを実践して読書の恩恵に与ることにした。読書を食事のようなものと考え、習慣化することが大事であり、読む方に変化をつけていくべきだと学んだ。加えて、読書する場を設けることも大切だといえる。図書館を利用したり、本に関するイベントに参加したりすることで読書する機会を増やすことで、自然と本に触れる時間が長くなり、本に対する興味も増していくといえる。本を利用して自身の生活に生かしていくことで、より教養を深めていくことができるだろう。

今回の授業は読書についてだった。事前に学生にとってアンケートの結果を踏まえた上で先生から読書に関するデータを学んだ。例えば、書籍の新刊点数は増加傾向があるが、書店数と出版物の販売額は減少しているということなどを学んだ。他にも日本の週間平均読書時間が30カ国中29位で、4.1時間だったということや日本の大学生とアメリカの大学生の四年間の読書数を比べると、アメリカは約400冊であるが日本は約100冊とこれだけの読書数に差があることも知った。現に今回のアンケートの結果を見ても一日の読書時間が0~30分の学生が約三分之一を占めており、あまり本を読まない学生が多くいることがわかった。しかし誰かに自分の読んだ本を薦めたいかという質問に対しては、約四分の三が薦めたいと答えていた。では、どのようにすれば学生は読書をするようになるのだろうか。アンケートの結果によると大学生が読書をしない理由は、同率一位で情報源が本以外だからと読書の優先順位が低いからでそれぞれ約33%を占めていた。これらのことから学生に読書をさせるには、月に一度や二週間に一度など期間を決めて、課題に読書レポートを課すなどして無理やり読ませることを続け、読書を習慣にすることから始めるべきだ。そして課題図書は毎回分野を変えて出すべきだ。なぜならば、課題図書には自分だけでは普段選ばない分野の本がたくさん選ばれており、それらの分野にも興味を持つことでその分野に関する新たな知識だけでなく、既存の知識と融合することで別の観点で物事を見ることもできるようになるからだ。

コメント [y99]: その通りですね。

今回の講義は「読書の勧め」についてであった。今回の講義を通して、私は今まで勉強などで本に接してきたがよりプラスαな「読書」については、ほとんど自主的に行って来なかったと気付かされた。

私は読書を行うことで損害を被ることはないと考えていた。よって「本をありがたがって、読みすぎると、心の近眼になって、ものがよく見えなくなる」。という記述に対して驚

きと疑問を感じた。

改めて読書の目的や魅力、コツを知り本というものには、温故知新のように長く読み継がれてきた名作や、最先端の情報などにより私自身を内面から豊かに出来るのだと新たに認識した。

この認識を短期的なものにしないために、私は自主的に読書を習慣化していきたい。

私は、夏休みに読書感想文があるとき以外、本を全く読みません。なので年間一冊です。小学生のころは本が大好きで、毎日図書館へ通っていました。中学校へ上がると、なぜか本を読まなくなってしまいました。本はいろいろな視点を与えてくれるすばらしいものだと思います。想像力を豊かにしてくれます。小学生の頃、「発想がすごい!」と言われていましたが、今は特に何も言われません。やはり本は読むべきだと思います。小説だけではなく、教授が書いた論文などにも挑戦してみたいと思います。

コメント [y100]: ぜひチャレンジしてください。

私は現在あまり本を読みません。大学生になり授業コメントやレポートを書くようになり、もっと語彙力や知識があれば、とつくづく思います。本を読もうと思っても他のことをやってしまったら、私の中では読書の優先順位が低いです。小学生の頃、読書タイムといって15分間本を読む時間がありました。読書が習慣付いていました。読書を習慣付けるためにこれをまたやってみようと思います。これから本を読んでレポートを書くことが増えると思います。知識を広げ教養を高めるため多くの本を読んでいきたい。

私は普段全く本を読まない。本を読むことが嫌いではないし、読み始めると時間を忘れて読みふけてしまう。しかし、読み始めるまでが長い。本屋に行っても、図書館に行っても、本を探しるのがめんどくさいと思ってしまうたり、読みたい本を調べるのもめんどくさくなってしまいます。だから、年に本を読むのは、夏休みの宿題に出される感想文の本を読むのと、国語の教科書を読むくらいだ。アンケート結果にもあったように、自分の情報源が本ではなくなった。もともと本を読まないからますます読書から離れてしまい、活字を読まなくなってしまった。読書のきっかけを知ったが、進んでほしいとも思えない状況である。課題をきっかけに、早くこの状況を脱却したい。

コメント [y101]: まずは、「読書の勧め」でレポートを書いてみてください。

今日の授業は「読書の勧め」というものだった。まず、大学生があまり読書をしていないということだ。次に、読書は知識や情報を深め、想像力を培い、共通の記憶に触れ、考えるヒントや生きる力を得る為に行うものだという事を学んだ。最後に、読書のコツと

して、音読をすることや、速読・遅読・通読をすること、色をつけてみること、読書を習慣化することなどを学んだ。私は本を読むこと自体は好きだが、読書をする時間は少ない。理由は時間がないからである。このようなことを言えば、「時間が無いを言い訳にするな」と言われるだろう。しかし、読書以上にしたいことが多くある為、本当に時間がないのである。寝る前に読書をする位なら早く寝てしまいたいし、トイレ中に読書などしようものなら痔になってしまう。だが、読書をすることで知識が深まるだろうし、私も実際に読書をし終えてみれば充実感があるのは事実であるから、これからは読書にも力を入れてみたい。

読書のススメと題打って行われた今回の**抗議講義**。私の読書の遍歴を見返す良い機会となった。私にも読書に熱中していた時期はあって、その頃は学校の授業中でさえも読書の時間と化していた。おそらくそれは小学校のころか。具体的な書名は思い出せないが、ジャンルでいえば推理小説やライトノベル、TVのドラマで扱われた本がほとんどすべてだった。記憶にも残らないということは、それだけ私自身にとってためにならないようなものなのだろう。

いま現在私の読む本といえば、たいていは論説文や、短編物語である。自分の行く道の導にでもなればということが好きに読み漁っている。私のためになる本かと聞かれても、わからない。将来になって今と同じように振り返って、その時初めて「対自分有用性」を認知できる。

さて、私事はここまでにして、今どうして読書をする日本人がへっているのか簡単に論じる。一番の原因は、インターネットの普及といえる。電子書籍や掲示板などは、紙媒体に移すことなく意見を不特定多数にこうかいされているから、いちいち紙をめくることなく読める点で、本よりもずっと楽だ。

しかし、本という形だからこそその楽しみもある。紙の手触り、紙をめくる音は、少なからず私たちにいやしを与える。

「冷たい画面に」指をふれて読む「本」よりもあったかい本のほうが良い。

コメント [y102]: 私もそのように感じます。

私が私である以上、何もしなければ私は私の人生しか分らない。本が私達に与えてくれるのは他者の人生だ。知らなかった知識、経験、感情を擬似的に自分の中へ入れることができる。

私達には一度の人生がある。本が私達の内部の凍結した海を砕く斧であるなら、未開の海の果てを旅したいと願うこの心のために、ぜひ本を読みたい。

また、航海には仲間が必要だろう。本を読み、考えや感想を語らい、また考える。そういった交流から、私達はまた別の人生を知るのだと感じた。

コメント [y103]: ぜひそういう仲間を作ってみてください。

今回の講義では読書について学びました。私は高校生になってから今まで本をあまり読まなくなりました。小学生の頃は小説をよく読んでいたのですが、生活環境が変わり、本を読む時間がなくなっていました。しかし今回の講義を受けて本の大切さを改めて感じました。本から学ぶことは本当に多いと思います。想像力、読む力、考える力、集中力など沢山あります。新しい知識を身につけることもできます。今まで時間がないことを理由に本を読んでいませんでしたが、これを期にまた読み始めようと思いました。

今回の講義では、読書の目的や昨今の日本の学生の読書時間の低下などについて学んだ。私は今まで読書というと、自分の興味のあるものについて知識を付けるために読むことはあったが、繰り返して読むこともなく、また、読む分野もほとんど同じものであった。

これから在学中にレポートを書く機会が多くあるだろうが、その中で自分の知識を高めること以上に文章から考察の表現などを学ぶことで、日頃の練習よりも効果的に上達出来るに違いないので、読書することは不可欠だろうという考えが今回の講義で多少なりとも芽生えたので有意義な時間だった。

コメント [y104]: そう思ってくれたなら、うれしいです。

私は小さい頃から親に本読むように教育されてきましたが本読むことに抵抗がありどうしても読書を好きになれません。だから、読書レポートのために本を読んでも目で文字を追いかけていても頭の中では他ごとを気づけば考えてしまっていてまた読み直すことが多々あります。読書に集中しようとしてもこれを繰り返してしまいます。

授業内容は読書大国と言われてきた日本が、今では読書の頻度が 30 カ国中 29 位というように本を読む人が減少していることについてだった。また読書をすることによって想像力が備わるということも学んだ。

私も読書によって想像力が備わり、自分には無かった観点からものごとを見ることができるようになる可能性があると考え。なぜなら、マンガとは違ってほとんどが字で構成されていることによって、自分で映像、または画像を思い浮かべることができるからだ。マンガでは文字だけでなく絵が描かれているため想像するという行為の必要がなくなってしまうのだ。また、本を読んでいると著者の独創的な考え方を感じ取ることができるときもあるからだ。

読書とは知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることである。

私は、この授業をしてくださった依岡先生には申し訳ないが、たった1回のこの授業で、バツと大学生が読書に取り組むようになるとは思えない。理由は単純明快である。読書よりも優先すべきものがあるからである。数の多いレポート課題に語学の予習復習、家事にサークル活動にアルバイト、一人暮らしが始まったばかりの大学生に思ったほどの時間の余裕はない。そしてやっと思えた自由時間、それを友達との交友や自分の娯楽に費やすのである。とてもその時間を削ってまで読書をしようという心理が働くだろうか、いや働かない。(自分の娯楽=読書の人を除く)また中・高と勉強に明け暮れて、読書をしてこないまま成長してきたため読書慣れをしてないことも原因の一つである。

ではどうすればいいのか。それは、自分の時間を捧げてまで「この本面白そう!読んでみたい」という本と出会うことである。自分の興味がそちらに向けば自然と読書に向かうようになるはずである。つまり本を探す手間が短くなればいいのだ。そのために長期的に取り組む方法としては、中学の国語を読書に変えれば良い。先生が一般の解釈を生徒に教え込む形ではなく、生徒が好きな本を図書室から借りてきてその時間に読むというものだ。そして生徒の間で本に関する話題が飛び交うようになれば大成功である。そうしているうちに自分がどのタイプの本が好きで、どのタイプが苦手か自然とわかるようになる。また中学から読書の習慣がつくことで、大学でも読書の面白さを覚えている人が多くなるだろう。そうすれば、大学生の読書量の低下は問題にすらならないと私は考えた。

コメント [y105]: どうすれば本と出会えますか?

コメント [y106]: そのような読書会もありますよ。参加してみませんか? 授業資料にも紹介しておりますので、のぞいてみてください。

近年の書籍の出版数は増加しているが、売り上げは減少している。これは、日本の読書平均時間の短さと関係が深い。

また、10代の若者の読書離れも進行している。理由として、多忙、情報源はスマホ、読書は大切だと思うが優先順位が低いなどの日常生活に関係しているものと、読書は面倒、孤独、暗い、かつこ悪いなどの感情に関係しているものがある。

しかし、読書には知識や情報を深めたり、想像力を培って共通の記憶に触れることで、考えるヒントや生きる力を得ることができる力がある。

そこで読書のコツとして、音読や会読、濫読などがある。また、小説や論文などで速読、通読、精読を使い分けると良い。

読書をしない理由の1つに、大切だと思うが優先順位が低いというものがあるが、その理由には矛盾がある。なぜなら、大切だと思っているなら人間の生活の中には隙間時間が多少はあるためその時間に読書ができるからだ。その時間に読書をしないのならば、結局は読書を大切に思っていないということになるのではないかと。

今回の授業では読書の重要性について教えていただいた。私は昔から本を読むことを好きだった。本を読むことで気軽に現実世界とかけ離れた世界観を感じる事が出来るからだ。今回の授業で読書の重要性を再認識したので、また色々なジャンルの本を読みたい。

今回の授業は、「読書の勧め」と題して、大学生の読書に関するデータや、読書の目的、コツなどの説明を受けた。その中で、読書をする際は、活字の会話などを自分の中でロールプレイし、映像化して楽しむ。その中で想像力が培われていくということや、小説は精読してじっくり読み、新書は速読し、論文やレポート、実用書はリサーチ的に読むことを学んだ。

今回の授業を踏まえて私が質問したいことは、読書が面白いと感じていない人に、読書の面白さを伝えるためにはどうしたらよいか、ということだ。

私は幼いころからよく本に親しんできた。だから、活字に書かれた内容や場面を自分で好きに想像したり、読書を通して知識を得たりする楽しさはよく分かる。しかし、私の友人には、文字ばかりを追いかけて内容を想像することが面倒で、活字ばかりを見ることが面白くない、という人もいる。このような人たちに読書の面白さを分かってもらうには、どうすればいいのだろうか。

また、私が今後の読書の参考にしたいので、依岡先生のおすすめの本を教えていただきたいです。小説でも新書でも構わないので、大学生におすすめの一冊をお願いします。

今回の授業では、私たちを含め日本全体が読書をしなくなっているという問題があることを教わった。

私は、小学生のときには読書が好きで図書室でよく本を借りていたが、今ではマンガやライトノベルしか読んでいない。私が読書をしなくなったのは、マンガやライトノベルなどのサブカルチャーの方がおもしろいと感じたからだ。

サブカルチャーという娯楽の普及により、若者を中心に日本全体の読書時間が短くなっているのではないだろうか。

今回の授業は読書についてだった。

大学生の読書時間は0~40分が4割を超えていることが事実であることは携帯の普及によることが理由である。

また、速読・平読・精読に分けて読むこともコツであり、通勤中や就寝前、トイレなども読む場として適しているということも学んだ。これには強く賛成した。

適している読書の場として挙げられたものはスキマ時間ともいえるとわかる。

コメント [y107]: 私も日々、そのことを考えております。

コメント [y108]: 私の書いた『読書のススメ』はどうですか。手っ取り早くは私の研究室にお越しください、たくさん紹介しますよ。

コメント [y109]: それも研究テーマになりますね。

人がボーッと過ごしてしまうであろう手持ち無沙汰な時間を読書にあてることで時間がないから読書が出来ないという状況を打破できるため、このスキマ時間は読書に適した場ともいえるからである。

読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることである。大学での教養・専門をつけるためには、読書は不可欠であり、教科書・参考書以外にも教養を高めるための本を読むことも大切だ。私は現在は読書をする習慣はついておらず、このままではいけないと感じている。積極的に幅広いジャンルの本を読んで著者の意見、思想を知り、自分の実生活に役立てたい。そのための第一歩として、関心のある社会学の本を読んでみようと考えている。

今回の講義では、依岡先生から読書についての話があった。その中で、大きく分けて、3つのことがわかった。

まずは、大学生の一日あたりの読書時間が0分の人が4割を超えているということだ。情報源がスマホなどの携帯電話に変わったことが原因として考えられるということであった。

次に、読書の目的についてである。「知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」が読書の目的であるという話であった。

最後に、読書のコツについてである。速読・平読・精読を使い分けて読むことや、本を読むのに適している三上「馬上(通勤中)・枕上(就寝前)・廁上(トイレ)」という場所があることがわかった。

私自身、忙しいと言い訳して、1日の読書時間が30分程度になってしまっている。今回の講義を機に、通学の時間に読書をしたり、就寝前に読書をしたりして、読書時間を増やしたい。また、知識・情報を深めるための読書というものをしたことがなく、いつも娯楽のための読書をしていたため、知識を深めるために実用書や論文などを読んでいきたい。

コメント [y110]: 大学では専門書やちょっとハードな本も読むといいですね。

1 読書の重要性について訴える授業だった。教科書・参考書以外の本も読んで幅広い知識と考え方を身に着けることが大切である。本を読むことによって、作者の人生経験を追体験することも可能であり、己では出来ない体験を本を通してすることが出来る。物語も、普段では出来ないあり得ない体験や出来事を想像することが可能。配布資料に記載されていたように、本を読む目的は「知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」なので、時間を見つけて本を読ん

でいきたい。本の読み方にはアルファ読み(既知を読む)とベータ読み(未知を読む)があり、自分が知らなかった事を新たに知る読み方をすることによって知的好奇心が芽生え思考力が養われる。本を読みながら考えたことをノートに書いたり人に話したりしてアウトプットすると尚よい。

2 食事するのと同様に読書を習慣化させることに賛成。

3 寝る前に読む、空きコマに読む、などして生活の一部に組み込んでしまえば習慣化する。習慣化させれば活字に対する抵抗もなくなり、どんな文章でも読もうという気になる。そういう気になり様々な本を読むようになれば、多様な考え方が身に付く上、豊富な知識・教養も身に付く。そこから更に興味を惹かれる物事を発見すれば芋蔓式に知識が増えていく。まだ書庫の本を漁る際には小説以外に手を伸ばしていないので、専門書の様なものにも手を伸ばしていきたい。寝る前に活字を読むと眠くなると共に翌日内容をよく覚えているので、「就寝前の読書」を習慣化させよう。

コメント [y111]: 読書すればするほど、思いがけない本に巡り合うが増えるでしょう。読書の幅も広がっていきます。

今回の授業では、読書について勉強した。「学生生活実態調査の概要報告」(2015年)によると、1日あたり全く読書しない大学生が40%超えるとわかった。そして、大学生が本を読まない理由はインターネットから情報の取得や読書への興味が無いのが非常に多い。しかし、この理由で本を読まないことは認められない。なぜかという、読書の目的は知識をふかめることだけではなく、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力をえることも需要からだ。

質問:読書について興味がない私の場合は、本を読むたびに眠くなってしまっているので、何か克服方法がありますか。

コメント [y112]: 眠くても読む。少なくとも寝るまでは読む。少しずつ寝てしまうまでの時間を長くする。

今回の授業では、読書についての話があった。全ての年代で大学生がもっとも読書量が少ないと言っていた。

私は読書があまり好きではない。読んでいる途中で飽きてしまう。しかし、やはりなにを学ぶにしても基本には読書が必要である。今後は読書する時間を決めて専門分野の本はもちろんのことまずは徳大の教授の著作など馴染みがあるものからチャレンジしたい。

コメント [y113R112]: 経験的に言うと、眠たいときには5分ほど眠ってから読んだ方がよい。

コメント [y114]: 持ってきてくれたらサインしてあげます。

今回の授業では読書のことを学んだ。授業で聞いたように若者の読書率の低下はスマホの登場であると思った。自分も小、中校では本を読み事が多かったがスマホを買って読書時間が格段に減った。大学生活では自分の興味を持ったものからでも本読むことを習慣づけ、スマホばかりいじらないようにする。読書イベントもどんどん参加してみる。

コメント [y115]: 私もサインしてもいいですよ。

今回の講義は読書の勧めという題目で読書の目的やコツ、読書に精通している方たちの読書に対する考えなどを知った。講義の冒頭では読書に関する様々なデータを見たが、本の出版社数や書店数、販売額はどんどん減少している。また、学生の1日の読書時間は0分という人が約5割を占め、アメリカの学生と比べても圧倒的に日本の学生は読書冊数が少ない。これは若者や学生だけでなく、日本国民全体で読書の習慣がしだいに失われてきていると言えよう。では、いかにすれば人は読書をするようになるのか。また、どのようにすれば学生は読書を習慣づけられるのか。これには読書に対するイメージを明るいものに変えたり、読書環境や読書機会を見直したり、読書をすることによってもたらされる良い効果や能力を具体的に分かりやすく情報提供することが必要だ。近年、書店の営業形態が進化し、書店に本を読みながら飲食できるカフェが隣接されたり、書店の中の様々な場所に本を読むスペースが設けられたりしている。書店が単に本を購入する場所ではなく、本に触れ、親しめる場所となっているのだ。そして、このような工夫は読書を楽しいものと感じさせるため、読書推進の対策としては大いに効果的である。しかし、ただ楽しいだけでは習慣づかない。習慣づけるためには読書という行為によってプラスの利益が発生していることが認識出来ることが**需要重要**である。そして、そのためには、読書をするによってもたらされる効果を具体的に情報提供すればよい。読書をすると知識や情報を新たに得られるだけでなく、社会人にとって最重要な教養を身に付けることが出来る。教養が必要ないという人は存在しないし、教養がなければ人生をより良いものには出来ない。教養のように、本の内容から直接得られる知識だけでなく、継続して読むことによって自分を豊かにする力や能力が得られることを広く認知させればよい。読書を「楽しいかつ利益を得られるもの」として多くの人に意識付けられれば、自然と読書人口は増加する。そして、本ほど自由楽しく学べる教材はないと多くの人が読書の虜になるだろう。

コメント [y116]: そうですね。楽しむという気持ちから読書の習慣が身につくのが理想ですね。

今回はデータを参考に、読書について学んだ。

日本では、書籍の新刊点数の数自体は増えているが、出版額や書店の店舗数は減少傾向にある。また、日本は他国に比べ、週間読書平均時間は少なく、そのなかでも特に10代の読書率が低いということが分かった。学生が読書をしない理由は、報源がスマートフォンやPCに変わったということが大きく影響している。現在は、ニュースなどの情報も、全てネット上で見る事が出来るようになった。本よりも手軽に自分の知りたい情報を得ることが出来るため、本以外を利用する人が増加しているといえる。では、読書をする事の目的はどこにあるのだろうか。読書はただ単に情報や知識を得るためだけのものではない。読書をすることで、想像力や言語能力を培い、考えるヒントや生きる力を得ることが出来る。学生は本から離れがちであるが、読書のきっかけは様々なところにあり、そのきっかけを利用して読書を習慣化していくべきである。

大学生の年間目標読書数は100冊。100冊読むためには3.65日に1冊を読むことになる。達成するには鞆の中に常時本を入れ携帯電話を本に持ち替える必要がある。しかし私は量より質にこだわりたい。知識を広げ教養を高めるに多くの本を読むことは重要であるが多くの本を読んでも一時的な娯楽になってしまってもったいない。そのため一度読んだ本を読み返すという習慣をつけることを提案する。したがって「本はゆっくり読むと、早く読める」(井上ひさし『本の運命』、文春文庫、2000年)は量と質の双方を高める言葉である。

コメント [y117]: それもいいですね。再読するのは大切ですね。

若者の読書離れについて、私は若者の読書に対する優先順位が低いことが一つの原因だと考えます。読書よりも先にやりたいことが多く、趣味や自由な時間も読書よりも別のことをしようとするため、読書に対する優先順位がどんどん低くなっています。若者の読書に対する優先順位をあげるためにどのようなことをすることが必要だと思いますか?

コメント [y118]: あなたの考えとその根拠を書いてください。

今回の授業では、様々な著者が読書について書いた文を通して、読書の目的やコツを学んだ。日本の読書好きランキングが30カ国中29位ということや、大学生の一日当たりの読書時間が0分4割超というのは驚いたが、その背景には日本文化の1つである漫画の影響があるのではないだろうか。小説などの本のほとんどは1巻で完結してしまう。しかし、漫画は何巻もあるので、1巻読み終わるたびに、どうしても続きが気になってしまう。また、絵があるので状況を把握しやすい。そういう点で小説などの本より漫画が選ばれているのではないだろうか。とは言え、文章だけを読み理解力をつけることが必要不可欠であるということを模試やセンター試験の評論・小説で学んだので、これからは積極的に読書をし、レポートで参考文献を読む際にも活かしていきたい。

コメント [y119]: 私も知りたいと思っています。私自身はそのためにいろいろな活動はしているのですが、あなたもぜひ考えてみてください。

今回の講義では読書の大切さについて学んだ。読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることであると学んだ。読書は論理的な考え方をするため、文章を書くために必要な力を養うことができる。例えば、論理的な考え方をするために不可欠な、豊富な知識を得ることができる。また、説得力のある文章を書くための言い回しや語彙を学ぶこともできる。そして、読解力が身につく。自分と違う意見を言われたり、読んだりしたときに、相手が何を指摘し、自分の考えとどう異なっているのか、相手の意見を的確に読解し、それについて反論することを繰り返すことができれば、より深い考え方ができるようになる。このような利点が

読書にはあり、何かの時間を削ってでもする価値がある。

コメント [y120]: ぜひ実践してください。

今回の講義は読書についてだった。近年では新刊点数は多くなっているが、売り上げや出版社は減っている。週刊平均読書時間を世界的にみると、1位がインド、2位がタイと続き、意外にも日本は30か国中29位と低かった。また、世代別読書率を比較すると、20代(65%)、50代(61%)、40代(57%)、60代(54%)、30代(53%)、10代(47%)、70代以上(42%)となっており、若者の読書離れがみられる。学生はなぜ読書をしないのかという理由については、多忙、情報源はスマホ、読書は面倒、読書は孤独・暗い・かっこ悪い、読書は大切だと思うが優先順位が低いなどがある。読書の目的とは、大学での教養・専門を身に付けるためには、不可欠:教科書・参考書はもと、知識を広げ教養を高めるための本を読むことも大切、「読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになる」(酒井邦嘉『脳を鍛える読書』実業之日本社、2017年)などと言われているように、知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることである。また、「彼は読書だけはずっと辛抱強く継続してやってきた。(中略)彼にとって本は小さいころから、小さな部屋になかった遮断板であり、別の世界への覗き穴だった」(キュンター・グラス『玉ねぎの皮をむきながら』集英社、2008年、34~35頁)、「読んでいる本が、頭蓋のてっぺんに拳の一撃を加えて目覚めさせることができないとしたら、それでなんのために私たちは本を読むのか。(中略)本は、私たちの内部の凍結した海を砕く斧でなくてはならない」(カフカ『夢・アフォリズム・詩』平凡社、1996年)などと書かれているように、読書はただ情報や知識を得るためのものではない。読書のコツとしては、習慣化する、ギアチェンジして読む、アウトプットをしながらなどがある。付属図書館での取り組みなどに参加したりして、楽しみながら読書をするきっかけに読書の場を持つようにしよう。

私は元々読書が好きで本をよく読んでいたのですが、大学生になりなにかとよまなくなりました。忙しいからといって、本を読むことを後回しにしていたのですが、これからは無駄な時間を読書の時間にあてようと思った。また、学生が読書をあまりしないのであれば、月最低一冊は読むように強制したり、授業などで本を読ませる機会を増やしたりすればいい。そうでもしなければ、読書をしましようと言っても聞き流す人がほとんどである。

コメント [y121]: そういう授業もありますので、受講するといいですね。また自ら読書の目標を立ててみるのもいいでしょう。

今回の授業では、読書の目的や、本を読まなくなっている大学生の現状についての話を聞いた。

読書の目的は、知識や情報を深めることや、想像力を培い共通の記憶に触れること、そして、考えるヒント・生きる力を得ることであると学んだ。また、小説やエッセイは精読、

新書などの論説文は速読など、本の種類によって読み方を変えることも大切だということも学んだ。

現代はインターネットが普及して、分からないことがあれば、何でもすぐにスマホで調べられるようになった。それゆえ、読書によって得られる想像力や言語能力を養うことができなくなってしまっている。また、小さい頃に本をたくさん読むことによって、想像力が豊かになったり、幅広い知識を身につけることができる。しかし、子供用のスマホアプリなどもでき、小さい頃に本を読む習慣がないまま大人になるのは残念なことだ。

私は最近本をよく読むようになったが、小説を読むと、本の世界に自分も入り込んだような気持ちになり、気分転換をすることができる。また、他人の人生や生き方について書かれた本を読むと、この人のように私も頑張らないといけないと思い、生きる力を得ることができる。

したがって、今の大学生が読書をしなくなっているのは、とても残念なことだ。

本は私にとって身の回りにあるが使わないものである。

小学生の時、読書が大好きでよく図書室へ行っては本を借り、ワクワクしながら読んでいた。その頃も陸上にバレーに多忙であったはずであるが、学校では本を楽しみにしていた。中学生になったころからか、本から私は遠ざかった。そこになにか原因があるわけでもなく、本を読むという習慣がなくなっていた。習慣がなくなると、そのままずるずるときてしまう。

今日の授業で、本を読むひまがないのは嘘だといっていたが、確かにそうである。多忙を言い訳に本を読まなかった。

本を読むより、スマホをいじったり、テレビをしたり、寝たりしていたほうが自分にとって楽しいからである。けれども、本を読む習慣がついている人は多忙を理由に本を読まないということはない。時間を見つけては本を読む。私からすると、本の呪いにかかったようだが、本人は楽しんでいるのだろう。

本を読む習慣がなくなったのは、当然といえば当然であると思う。

活字離れしている中で本を読む習慣が増えるということはない。

それに、小学生でもスマホを触り楽しむ時代だ。本を読む習慣というのはつきにくい。

しかも、世間では本を読もうという活動もある。押すな押すなと言って本当は押ししてほしいように、人は反対の行動をする生き物なのだと考えると、読め読めという活動はしなくてもよいのではないか。

今回の授業では、読書の重要性について考えた。特に印象に残ったのが「いろんなジャンルの本を読んでみる。」ということだ。授業でも教養、専門を身につけるためには読書は

コメント [y122]: 読む暇がないというのを「嘘」だとは思いません。現代人は、確かに忙しい、それでも本気で読書したいと思うなら、なんとかやりくりできるのでは、という意味です。この授業は、大学生活の中でなんとか読書の習慣をつける工夫を自分なりにしてほしいという思いから行ったものです。

コメント [y123]: コメント y10 を参照。

不可欠である、と述べられていた。様々なジャンルの本を読むことでより多様な分野の知識を吸収できるはずだ。私は普段、読書といえば小説を好んで読む。しかし課題などで研究書などに触れ、小説とは違った読書経験をすることができた。難しいと感じる分野の本も読んでみることで、新しい発見ができるのだ。

また、読書のコツとして紹介された「三色ボールペン方式」が印象に残った。普段本に書き込みはしないが、大事な場所にラインを引くこの方法は、読み直しするときに内容を深く理解する助けになると思った。

読書。自分一人の身体だけでは体験できないようなことや、自分の生きる時代のはるか前を生きた人の体験や記憶などを、文章というヒントとエネルギーをもとに想像の翼を羽ばたかせること。そして、その翼で想像の空を飛び回り、人類の歩んできた道のりを見渡し、また、人類がこれから歩むべき道を、かすか遠くにでもいいから見えたような感覚を得ること。それら想像の体験をもとに、現実世界を誠実に、希望をもって生きること。

誠実に生きるとは、自分のみならず、他者も尊重して生きることである。読書をすることで、“誠実に生きること”の具体的な例はたくさん見つけられる。物語の登場人物であったり、エッセイで語られるエピソードであったり、歴史上の人物の話であったりと、枚挙に暇がない。また逆に、“誠実さ”を理解しているつもりでも、“誠実さとは何か”という疑問に改めてぶつかるかもしれない。そんなときは、さらに本を読むという方法もあるが、疑問について誰かと話す、ということも大切だ。

読書でのインプット(一人での作業)と、読書からのアウトプット(二人以上での作業)のバランスを大事に、これからもたくさんの本や人と出会えることを期待したい。

今回の講義では、読書の意義を学んだ。大きく分けて二つある。まず一つ目は、読書時間が非常に少ないことである。大学生の4割超は読書時間が0分である。確かに私は、大学に入学してからゆとりある読書をしていない。(だからといって私の読書時間は0分ではないのだが)なぜなら、高校生の時と比べて毎日がレポートや宿題に追われるからである。他にやらなければならないことが多いのだ。読書は自ら読むのであって、宿題のように強制力はない。しかし、読書は知識・情報を深めることができる。一方で、読書量が少ないと偏った知識になる恐れがある。自分の興味のある本を選ぶと自然とそのように偏った知識となる。例えば、原発においても脱原発だけの本を読んだ場合、原発を賛成する人に対して果たして寛容に受け入れることができるだろうか。アメリカでは、学生に課題として読書を強制ながらもさせて幅広い知識を持たせている。日本人も読書量を増やすことで知識を広げるべきだ。二つ目は、読書のコツのことである。読書だけでも、「音読」「会読」「濫読」「再読・反復読」「積読」と数多くある。私は「会読」という言葉を知らなかったので

コメント [y124]: 読書の幅を広げることを、これからも意識的に行って行ってください。

コメント [y125]: きっといい出会いがあるでしょう。

調べてみた。「会読とは2人以上が寄り集まって読書すること」(広辞苑)。これはビブリオのようなものである。会読が一番重要である。なぜなら、読書するだけでなく、読んだことから考えて書いたり、人に話したりしてより知識が深まるからだ。私は本を読むスピードは遅いが、読む本に合わせて読書のスピードを変えていきたい。

今回の授業では読書の重要性とその方法についても学んだ。読書によって、知識、情報を深め、想像力を培い、共通の記憶に触れること、考えるヒントや生きるヒントを得られる。また、読書には「音読」「会読」「濫読」などの読み方があることもわかった。

私も本を読まなければならないと思っはいるのだが、実践できていないのが現状だ。この授業があった日に家に帰ってから「読書 有用性」と検索してみると、読書をする「年収が上がる」や「IQが上がる」「異性にモテる」などといった眉唾の情報があった。統計的に相関関係が見られたようだ。(サンプル数は不明)私はこの情報に刺激されて、週末に1冊の本を読みきってしまった。大学の先生にとって真偽が不明な情報を学生に伝えるのは抵抗があるかもしれないが、こういった情報があると読書量を促進できるのではないだろうか。

コメント [y126]: 私もその種の本は読んだことがあります。それで読書しようと思うひとがいるのなら、授業で言うのはさっておき、あながち悪くはないかもしれませんね。

今回は依岡先生が読書の大切さについて講義をしてくださった。大学生は多忙であるため、読書をする時間が減少しているのだと私は昔から考えていた。それは実際に自分が大学生になってひしひしと感じるものであった。私も読書をする時間は高校時代より激減した。だから今回の講義も聞いたところで何も変わらないだろうと高を括っていた。だが読書アンケートより私が思っていたよりも多忙を理由に読書ができないという人は少なく、ああそうなのかと感じさせられた。最も多かった回答が「情報源が本以外である」と回答した人が全体の約四割を占めていた。これは多忙を理由に読書から逃げられないなと感じた。私が今回の講義でこれまでの自分の読書に関するイメージが払拭されたのは、「読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられる。すると、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになる」酒井邦嘉[脳を鍛える読書]実業之日本社、2017年)というスクリプトをみた時だ。今まで私は読書は単なる知識の習得だけだと考えていたが、読書はそんな単純なものではないのだと教えられた。総合科学部には読書レポートがある。その宿題を単なる読書で済ませるのではなく、自分の能力を高める一機会として有効活用しようと思った。

今回学んだ「多忙を言い訳にしない」「三上」などの読書方法の中で、私が一番腑に落ちたのは「三色ボールペン方式」だ。読書とは自分が面白いと思うから読み進めていけるものだが、単純にそこから新たな知識を得ようとするには客観性が欠ける。そこで3色のボ

ールペンで「主観的に面白い」の他に「客観的に大事」「客観的にとても大事」の線を引いていくのだ。全体を「主観的に面白い」という感想で終わらせるのではなく、文章を細かく分析することで、「客観的に大事・とても大事」な知識を得られる。

またこの方法でなら、今まで「客観的に大事・とても大事」な事がたくさんあるだろうが「主観的に面白い」は無さそうという思い込みから手が伸びなかった新書なども、「主観的に面白い」を見出すべく手に取ってみようという気になる。

講義の最後に言っていた「読書は食事と同様に習慣化するのが大切」という言葉を忘れないうちに、まずは1つ課題図書を手にとってみることにする。"

コメント [y127]: その姿勢が大事ですね。

今回の授業では読書の必要性について講義を受けた。日本人大学生の読書量が少ないこと、読書のコツなどを学んだ。

本をよく読む人・読める人と、本を読まない・読めない人は読書に対する認識が違うのではないだろうか。本をよく読む人は趣味として読書をしんでいるはずであるが、私のように読書が苦手な人は本を読むこと=勉強というふうに捉えてしまっている。

頃頃から読書をする習慣を身につけるためには、この意識をまず改め、本に親しむ段階から始める必要がある。

今回は読書のすすめについて講義を受けた。読書に関するデータでは、読む人と全く読まない人の差が開いていると知った。世界各国の週間読書平均時間を比べると、日本はとても低い水準である。また、上位4位を発展したアジア圏内の国々が占めていて、読書による教養を高めることが、国力の増加と関係があるのかもしれない。読書は想像力を高めることができるうえ、言語能力や論理的思考力をも養えるという利点がある。しかし、日本の10代の読書率が低く、この習慣が次の世代まで続くと将来、本の役割はより小さいものになってしまうだろう。

今回の講義で疑問に思ったことは、なぜ新刊の発行数が増えているのかということだ。読書離れが進み、出版物の売り上げも減少しているからだ。

コメント [y128]: 疑問を持った理由、自分なりの回答とその根拠を書こう。

コメント [y129]: ひとつには、新刊の一冊あたりの発行部数が減っているためです。

今回の授業で読書の重要性を再確認した。3つあげられた読書の目的のうち、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント、生きる力を得ることの2点は、実際に私の読書に対するイメージや経験とも一致し、共感することができた。しかしながら、もう1つの読書の目的である知識・情報を深めることという点が、共感できる経験がないので、ピンとこなかった。なぜなら、私は、小説類が好きで、小さい頃から今まで本を購入して読むといえば、小説類であったからだ。私は、どうしても小説以外の部類の本に興

味を持ってないため、小説の中で出てくる地名などの少しの知識は得られるが、情報源として読書をする習慣はない。また、小説以外の部類の本を読もうという気が起こらない。買ってみようなどという気はなおさら起こらない。この点、自分の好む部類の本以外の本に興味を持ち、読もうとするには、どうすれば良いのか、教えていただきたい。

今回は読書に関する講義だった。読書に関するデータとして、日本の書店数は減少し、読書の国際ランキングは30カ国中29位、読書の日米大学比較も日本はアメリカの四分の1程度である。また、新刊は増加しており、週刊誌や月刊誌は減少傾向にあり、本の売り上げも減少している。読書の目的というのは知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることだ。

今までは、読書はしていたが自分の興味・関心のある内容にしか手を出していなかった。今後は自分の無知を自覚して総合科学部に求められる学際性を深めてきたい。

今回の授業は読書の勧めということで読書の目的について学ぶことができた。読書は知識を得るものためだけにするのではなくて、読んでから自分が何を考えたり思ったりしたのかを書くことが大切だと分かった。書くことで見返すたびに本の内容を思い出すこともできるし、その本を読み直したときに、新たな発見ができれば初めて読んだ時と違った考えが持てたと実感することができる。読書を習慣化することで想像力と言語能力を鍛えることができ、考えたことや感想をかくことを繰り返すことで自分の教養となる。

今回の授業では読書の大切さを知った。読書をすることで知識、情報を深め、想像力を養い、共通の記憶に触れ、考えるヒントと生きる力を得ることが目的である。しかし出版点数は増加しているが書店数や10代の読書離れの現状も知った。インターネットの発達により出版社の人や印刷局の人と直接会うことなしで話が進められるため、素人でも本の出版をしやすくなり出版点数が増加した。しかし、書店に足を運ばなくても本が手に入り中古の本も出回りやすくなったため書店数が減ってしまったのもインターネットによる影響だ。私は読書が嫌いというわけではないが日常生活の中での優先順位が低く、どうしても後回しになりがちである。多くの学生が同じ状況であることもわかった。この状況を改善すべく私は朝読書を提案したい。自宅生であれば通学時間、下宿生であれば通学前に10分程度の読書の時間を設けるべきだ。大学生はアルバイトなどで帰宅時間が遅くなり、夜型の生活になりがちだ。しかし朝の読書を習慣づけることで早起きの習慣もつき読書の時間も確保できる。また、脳が活性化された状態で授業に入れるためメリットが多い。よって朝読書をするべきだ。

コメント [y130]: あなたが興味を持っていない理由を書いてくれないと、対応を考えようがありません。

コメント [y131]: まずは興味をもつことが大切ですが、そのためにも本を読むといいでしょう。好みのものを読みながら、その作者が読んできた本に手を伸ばすというように、徐々に読書の幅を広げていったらどうでしょう。

コメント [y132]: いい案ですね。実践してみたら。

今回の総合科学部入門講座では、改めて読書を学生のうちにたくさんする大事さを学んだ。読書は、専門・教養が身につけることが出来る、知識を広げることが出来る、創造力を培うことが出来る、などメリットがたくさんある。しかし、最近の若者は多忙、情報手段はスマホ、などの理由で読書をしなくなっているようだ。実は私もその中の一人で、つい多忙を言い訳に本を読む習慣を遠ざけてしまっている。今回の授業で、アメリカの学生と日本の学生の読書本数を知ってとても自分が恥ずかしくなった。これからは積極的に難しめの本を読んで、教養を身につけよう。まずは授業で紹介された、『罪と罰』を手にとってみるとする。

今回の講義では、読書について学んだ。読書に関するデータでは、大学生が本を読まなくなっていること、また本の出版点数は増加している一方で売り上げは低下していることを知った。そして、読書に関する本の著者によって読書に対する見解が違うことも知った。

教養を身につけたり自分の意見を発言するためには、知識を広げる必要があるため、多くの本を読む必要がある。自身の経験のみでは得られる知識や情報に限界があるため、本を読むことで他人の経験からそれらを得ることができる。また、多くの本を読むことで様々な視点からの考え方を吸収することができるため、自分の意見を生み出すきっかけとなる。

授業プリントで「本をありがたがって、読みすぎると、心の近眼になって、ものが良く見えなくなる」(外山滋比古『乱読のセレンディピティ』、扶桑社文庫、2016年)とあったが、それは同じ著者の本ばかり読んだ場合や、似通った思想の著書ばかり読んだ場合である。また、「心の近眼」とは自分が本を読むことで得た知識のみを信じ、他人の考え方や反対意見などを受け入れることができず、広い視野で物事を捉えることができなくなることである。よって、偏りなく図書を選択して読み、読書で得た知識を自分の意見を生むきっかけにすることが大事である。

コメント [y133]: その通りだと思います。

今回の授業では、特に若者の読者離れについてのことについてのお話が印象に残っている。若者の読書率は、20代で約65%、10代で約47%、70代で約42%と、10代での読書率が低いことがわかる。70代も読書率が低いがこれは、目が見えにくくなったりと、本を読む意識の問題よりも身体の障害などにより、読めない場合も多く含まれていると言っていたため、10代の読書率が低いことに目をつけた。また、読書をしない理由として、多忙であることや、特に多かったのがパソコンなどインターネットによるものが情報源ということだ。これに関してはわたし自身も主な情報源がスマホなどでインターネットによるものであるため、納得できる。また、わたし自身もそれより読者離れしていると実感してい

るものの一人だ。しかし、大学での教養や専門を身につけるには読書というものは不可欠であると先生は言っていた。よって、読書というものは教養や想像力を身につける上で必要なものであり、多忙なら多忙で時間を作ってでも読書しなければならないということがわかった。また、インターネットでは補うことができない情報や、知識を手に入れるためにしっかりと読書を意識して行きたい。

しかし、このように読書をするもののメリットのほかに、読書のデメリットも学習した。というのは、読書とは他人に教えてもらうことであるということだ。本をありがたがって読みすぎると心の近視になって、ものがよくみえなくなる=読書メタボリックシンドロームになるということだ。よって何事もほどほどに適量を考えて接していくことが大切だ。

また、読書のコツとして「三色ボールペン方式」という青、緑、赤の三色を使って線を引きながら主観的に大切だと思うことや、客観的に面白いと思うものに線を引きながら読むという方式があると知った。これは、これから意識して取り入れて行きたい方法である。読書のレポート課題などのとき主観的なものと客観的なものを分ける作業が大変だと感じていたため、今すぐ有効に使えるものだ。

コメント [y134]: やってみてください。

私は中学生の時まで毎日一冊は読んでいた。今時珍しく本を読みすぎて怒られることもしばしばあった。しかし高校に入ってから私は睡眠を優先させるようになった。さらに首が痛く本を読む体勢がしんどくなっていた。それらの変化により私は全くというほど読まなくなっていた。読まなくなった理由としてもう一つ上げると本に集中しすぎると時間が分からないということである。スマホでゲームをする、電子書籍を読む、などしていたら必然的に通知や画面の表示上時計が見える。私は幼いころから本を読んでいておかげで本に対しての集中力はあるほうだ。しかし、集中しすぎて時間を忘れるといけないので本当に大きな時間があるときにしか読むことができない。

学校でも今まで何度か「読書のコツ」と言われるようなものを教えられて来た。しかし実際どのぐらいの人がそういった方法を意識して読んでいるだろう。少なくとも本好きの人は自分の読み方を確立しているだろうしそんなこと意識する余地もなく本を楽しんでいる。そもそも本に読み方などない。そこに書かれているのは日本語であるし、何も普段と読む文章は同じである。何も偉そうに「この読み方をすればかならず早く正確に読めます」なんてことは言わなくていいのだ。普段の読書は何も急ぐ必要も完全なる理解も求められていないのである。センター試験の時は試験であるため楽しむ必要はないが、そうやって「早く読まなきゃ」などと意識させることによってより読書に対するハードルが上がっているのである。

コメント [y135]: そのとおりですね。

コメント [y136]: 趣味としての読書に関しては、人からとやかく言われることはないでしょうが、大学の研究のための読書では、文献講読などで読み方のトレーニングはさせられると思います。

コメント [y137]: 「読書のコツ」については、私自身はこの授業で紹介した本などからたくさん「コツ」を学ぶことができました。しかし、たしかに周りからあまり言いすぎると逆効果かもしれませんね。また、授業でも紹介しましたが、ゆっくり読むということを勧めている人もいます。自分のペースで読むこと、私も基本的にはそう思っています。いろいろな読み方を紹介はしましたが、それを参考にしてくればそれにこしたことはないですが、まずは読書に親しむことが大切だと思います。

今日は、読書の大切さについて学んだ。まず大学生のほとんどがあまり読書をしていな

いことがわかった。理由はスマホで暇つぶしできるからや、バイトサークルで忙しとのことだ。確かに、私が車で通学していると、読書している人は少数で、大半はスマホを見ている。次に本を読むことによって脳が活性化することが明らかになった。特に小説、物語や難しい本を読むと効果的だ。また読む速さを変化させるのも良い。読書は自分の人生について考えさせてくれる。つまり、生活の質を豊かにする役割がある。

今週の授業は読書の話だった。確かに、読書は、人に対して大切なものだ。本が失ったら、人の思考力も失うかもしれない。但し、私は、今に対して、読書の冊数と読書の時間の長さはそれほどの重要なことではなく、もっと重要なのはどのような本を読むことだと思

う。

読書は専門の知識のためと教養のため、大体 2 つの目的である。昔で、教養としての知識を身につけたいなら、読書しかできなかった。例えば、30 年まえの中国で、本があまりなくても、百科事典があった家が多かった。自分の興味の情報のため、雑誌を購読していた人も多かった。しかし、今の時代でいろいろな方法で、自分の興味がある知識や情報を入手できる。ただこのようなこともある程度の知識や情報はネット(雑誌と百科事典として)で調べただけでも十分だ。その上で、もっと知りたいなら、専門の本を読むほうがいいと思

う。つまり、ただ程度問題だ。深い知識はネットを頼って、深い知識が本で調べる、このようなことをすれば、週 1 冊でも、100 年前の 10 冊よりもっと効果があると思

う。私は今で毎日読書の習慣はどれほどの知識を身につけたに関係なく、持ってなくてもいいと思

う。

コメント [y138]: 「思う」を消して根拠を書こう。

コメント [y139]: 日本語がおかしい！

コメント [y140]: 文意がわからない。

今回の授業では本を読むことの大切さについて学んだ。

まず、読書の目的のひとつは、情報を集めたり、知識を深めたりすることだろう。教科書や参考書を読むだけでなく、本を読み、その物事に対する様々な考えを知ることは知識を広めるのに役立つ。また、本は映像と違って文字だけで表現されている。そのため、元から決まっているイメージがなく、表現されていることを自分で想像しなければならないので、想像力を培うことが出来る。そのような言語能力を鍛えることで、人が生きていく上で必要不可欠な、思考能力が身に付いていくのだ。

しかし、近年では本を全く読まない若者の層の割合が増えており、読書離れが進んでいる。インターネットで情報がすぐに手に入るようになったことや、忙しい学生生活の中で、読書は優先順位が低いものと思われるのも原因だ。想像力と思考能力は生きていく上で必要であり、人生を豊かにするものであるため、読書の優先順位は決して低いものではない。通学時間や寝る前の隙間時間を読書にあてることで、読書する時間を確保することはできる。それを続けて、読書をする習慣をつけることが大事だ。

最初は前回の復習や答え合わせをした。

依岡先生が今回の授業をしてくれた。「読書の勧め」についてした。事前アンケートでしたことをグラフにして説明をした。(ラスコーリニコフ)(ムルソー)についてを聞いた。日本は読書好きランキング 30 か国中 29 位だと知り驚いた。一位はインドだった。また、日米学生は 4 年間でアメリカでは平均 400 冊で、日本その 4 分の 1 で 100 冊ほどしか読んでいなかった。男子と女子では男子の方が本を読んでいる数が多かった。

読書の目的

・大学出の教養・専門を身に付けるためには、教科書、参考書はもとより、知識を広げ教養を高めるための本を読むことも大切。

・「読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられる。すると、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになる」

読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることが目的になる。

読書のコツ

「音読」「会読」「濫読」「再読・反復読」など

「三色ボールペン方式」

「多忙を言い訳にしない」

「本はゆっくり読むと、速く読める」

「三上」など

についてまなんだ。

また、毒虫に出てくる来る虫...私は、そのことを聞き毒虫はムカデを思いうかんだ。なぜなら、壺に毒の虫をいれ最後の一匹が毒虫ではなしえお思いついたからだ。

コメント [y141]: 「ムカデを思い浮かべた」もしくは「ムカデが思い浮かんだ」

コメント [y142]: 文意が不明です。

今回の授業では、依岡隆児による読書に関する講演を聞いた。読書は、知識を広げ教養を高めるためにとっても大切である。また、読書をすることによってそうぞう力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることができる。また、ただ本を読むだけでなく、速読・平読・精読を使い分けたり、読んだ本をもとに考えたりすることも必要だ。自分はあまり読書をしない。しかし、本を読むことはとても大切であるので、この読書レポートをきっかけに読書の習慣を身につけていきたい。

1 日の読書平均時間が 0 分という人が総合科学部で 4 割。かといって読書に対して否定的なイメージを持っているかと言うとそうでもない。読書をするのは頭の中に直接言語を

インプットしながら考えたり、教養を付けるのにはうってつけである。ということを知っているのに読書をしないのはなぜか。

それはもしかすると、昔より教養知識への自発的学習意欲が衰えたからかもしれない。全く興味が無いわけではないが、自分で進んで調べてみたいと思うほどではなくなっている。本自体、様々な知識の詰め合わせであって自分で実験や検証をせずとも済むよう大分良心的に知識を提供してくれているはず。それでも私たちが本を手にとらないのは、与えられて当然の環境に慣れてしまい「無くても困らないもの」を食欲に求めようとはしなくなったのではないか。

コメント [y143]: 卒業していく学生たちに「ハングリーであれ！」と言った人がいましたね。

今回の授業の主なテーマは、読書だった。

私自身、幼少期から読書をするよう両親に勧められていたが、明らかに同世代の友人と比べると読んだ本の冊数は少なかった。大学生になった今でも、自ら進んでは本を読まない。読書をする事で語彙力はもちろん、発想力や創造力が身につく。このような力は大学を卒業し、就職してからも役に立つので、時間がある学生時代のうちに日本語の本や外国語の本などより多くの本を読みたいと思う。

今回の授業は主に読書に関することであった。まず初めに「読書クイズ」と銘打たれたいくつかの質問が提示された。具体的には『罪と罰』などの著名な作品の登場人物の名前を知っているか問われるものや、出版社数や書籍新刊点数の推移、日米の大学生による読書時間に関する問いである。私の予想は出版社数と書籍新刊点数はどちらも減少し、日米の大学生の読書時間はアメリカの大学生の読書時間の方が圧倒的に多い、というものだった。

しかしデータを示されたグラフを見てみれば予想は一部外れたことがわかった。なんと書籍新刊点数は増加していたのだ。また、グラフは表示されなかったが口頭で書店の数が減少していることも説明された。私自身地元の本屋が潰れてしまい、町に一軒も本屋がなくなってしまった経験があるためこの情報はすんなりと納得した。このように示された情報から新しい書籍の数は増えているが、買う人や本屋の数が減っており、需要と供給が成り立っていないことがわかる。

続いて日米の大学生による読書時間のデータや生協による学生の読書時間の推移に関するデータから、日本の学生は読書をしなくなってきているという結論を依岡先生は出された。ならばこの結論である「日本の学生は読書をしない」理由は何なのだろうか。

パワーポイントで示された学生を対象にした読書アンケートによると「情報源が本以外であること」や「その他に比べて本の重要性が低い」と答えた者が多かった。またその次に「読書が面倒である」「多忙で本が読めない」という意見も多かった。それと対照的に「読

書は暗い、孤独だ」などのマイナスイメージを読書に対して持っている者はほとんどいないことが分かった。このことから日本の学生が読書をしない理由の一つとしてスマートフォンの普及が挙げられる。

私は幼いころから読書が好きで小・中学生の頃は読書が娯楽の一つだった。しかしスマートフォンを持ち始めた高校生頃から読書に向ける時間が減ってしまっている。私の読書時間が減った理由はスマートフォンの便利さに魅了されてしまったからだ。あの小さな箱一つで誰かと会話することも音楽を聴くことも数多の情報を手に入れることも出来るのだ。このように便利で手軽に楽しさを得ることできるものに多くの人々が夢中にならないはずがない。

ここで一つ疑問がある。今回のテーマである「読書」とは何なのか。具体的に言うと、一概に読書と言っても漫画、雑誌、ケータイ小説などを読むことは読書に入るのか、ということだ。これらの書籍は幾分か軽んじられることが多い。また、今回の授業だけでなく今までに何度も読書を勧められる機会があったが、**勧められる本は新書や論文が多く、小説を勧められるとしても近現代の文豪によるものである。**それらは私たちに多くの情報を与えたり豊かな情緒を育ませたりすることだろう。また坪内逍遙の『小説神髓』には「我が小説の改良進歩を今より次第に企図てつつ、竟には欧土の小説を凌駕し、絵画、音楽、詩歌と共に美術の壇頭に燦然たる我が物語を見まほりす」とある(坪内逍遙、『小説神髓』、松月堂,1885/「近現代文学の世界 I」という講義内のプリントより抜粋)。この文章にあるように明治や昭和の作家による小説は娯楽というよりも芸術の一つとなっているため、見識のある人々は盛んにそれらを読むように勧めるのだろう。では彼らに勧められない現代の小説はただの娯楽でしかないのだろうか。私が今まで読んできた本の多くは娯楽としてカウントされるものが多い。楽しさに意味を求めること自体おかしいのかもしれないが、私がこれまで「読書」だと思っていたこの行為は何だったのだろうか。**楽しむための「読書」と学ぶための「読書」は全く別なものなのだろうか。**

大学生では様々な教養・専門知識を身につけるために情報を得る必要がある。情報を得る手段としてはインターネットの他に読書がある。単に調べるだけならインターネットで良いと思えるが読書の利点はただ調べるのみにあらず、読書を通じて想像力が培われ、言語能力も上がる。またネットと違い、本として保管しておくことにより達成感も得られる。これらのことより読書は調べるための道具だけでなく私達の人生を豊かなものにするのだ。

今回の総合化学入門講座では、依岡先生による「読書の勧め」という講義内容であった。まずは、いつものように山口先生による前回の授業内容の復習及び、指定されていた教科書、課題確認のための小テストを行っていただいた。

コメント [y144]: 重要なのに、ほうっておくと読まないからでしょう。放っておいても読む本を勧める必要はないですから。

コメント [y145]: 楽しむため、それもりっぱな読書の目的です。そういう読書も、もちろんあります。授業ではそのことを「生きる力」という言い方をしておりました。

そして次に今回の授業の本題である「読書の勧め」の講義に移った。

まず初めに読書に関するデータを見せていただいた。具体的には、読書時間 0 分の大学生の人数の割合、日本の出版点数・書店数の推移、日本人の読書の国際ランキングなどであった。

続いて、読書の目的というものを教えていただいた。まず依岡先生は「大学の教養・専門を身に着けるためには不可欠であり、教科書・参考書はもとより、知識を広げ教養を高めるために本を読むということが大切であるということ」を提言していただいた。さらには学者や作家の言葉を例に挙げて読書の目的などを教えていただいた。例えば、「読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられる。すると、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになる」(酒井邦嘉『脳を鍛える読書』、実業之日本社、2017) などであった。添いて例に挙げたものを含め先生は読書の目的について「読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」ということをおっしゃっていただいた。ただ、読書は知識や情報を得るための道具だけではないということをおっしゃっていただいた。具体的には「本を読む時間は愛する時間と同じように、人生の時間を広げる」(ダニエル・ペナックの『ペナック先生の愉快な読書法』、藤原書店、2006、143 項)などであった。

続いては、読書のコツを教えていただいた。具体的には「音読」「会読」「濫読」「再読・反復読」「積読」「全集を読め」などであった。さらに「アルファード読みとベーター読み」(外山滋比古『読みの整理学』、ちくま文庫 2007 年)

「三色ボールペン方式」(齋藤孝)などを教えていただけた。そして最後に依川先生の方から以上を含めて読書のコツを教えていただいた。具体的に、「習慣化する、日々の生活の中で続けるということ」、「ギアチェンジして読む、速読・平読・精読を使い分ける」ということ、「アウトプットをしながら読む、読書しっぱなしではなくて、読んだらそのことをもとに考えたことを書いたり、人に話したりしてみる」ということであった。

そして最後に、読書のきっかけということで、徳大付属図書館での取り組みでもある「ライブラリーワークショップ」や「阿波ビブリオバトルサポーター」などの読書企画に参加してみたり、読書サークルやまちライブラリーなどに参加することによって読書の「場」を持つということであった。

そして読書レポートについておっしゃったあと、今後出す課題を事前に説明して本日の講義は全て終了した。

今回の講義を聞き、読書をすることによる注意があるのではないかと感じた。依岡先生のおっしゃる通り、知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることというのはその通りであるだろう。さらにはただ教養をつけるだけのものではないという主張もあっているだろう。しかしながら、これが当てはまるであろう人は、バランスの良い読書をしている場合ではないだろうか。バランスの良い読書とは哲学・社会学・経済学など専門性の強いものだけでなく小説なども含め

て読書をする事だと私は定義する。そのバランスの良い読書をすれば、もちろん幅広い刺激を受けることで依川先生のいった読書の目的を達成できるであろう。だが、多くの人には苦手だとか興味の引かないものがある、私にもそれはいえよう。私は小説が苦手であるため、好きな哲学や歴史学の分野の本に固まって偏りがある。そうすると、やはりその哲学や歴史学などの本の中でしか発見も得られないであろう。そのため、読書をするときには、好きな分野に固まらずに苦手な分野の本まで手を出せるようにすることが必要だ。

そのためにも先生がおっしゃった読書会などに参加することがきっかけとなりうるはずだ。

コメント [y146]: ぜひ参加してください。

今回は読書に関する講義だった。先に言い訳をしてしまうのだが、私はこの春まで受験生だったため、高校1、2年次に比べ、3年次はあまり読書をしなかった。しかしこの1ヶ月半、大学に入学し学んでいくうちに、論文やレポートなど自らの主張を客観的な根拠を元に述べる時、いかに知識や情報を深めていることが大切か思い知った。そして深めるための1つの手段として、想像力を培うことが出来る有効な手段が読書なのだ。また、依岡先生は「読みっぱなしではなく、アウトプットをすることも大切だ。」とおっしゃっていた。これに関して、私は何度も行ったことがある。友達を読んで面白かった本を紹介してもらい、私が読み終わった後で感想を言い合う。同じ部分で共感することもあれば、捉え方や考えが違うこともあった。さらに他の友達に薦めたり、読んだことがある先生に話を聞き、さらに意見を集めたりすることもあった。そうしていろいろな考えをまとめ、自分たちの中に知識として落とし込むのだ。

そういう環境が周りにあったり、そもそも今まで知らなかった知識を知ることが出来、深められる読書が私は好きだ。しかし現状では好きだと言い張っているだけで、あまり読書を積極的に行っていない。だから言い張るだけでなく、読書やそこから得られた知識で論理的な文章を書けるようにアウトプットすることを毎日続け、習慣化する。

コメント [y147]: そう思ったら実践する、それが大事ですね。

今回の講義は読書についての話だった。入学して間もない時から、読書レポートの課題がでていたがその目的は、大学での専門知識をつけるためには知識を広げ教養を高めることが大事であるためだ。年齢別読書ランキングでは10代はワースト2位であることが分かり、10代の活字離れを思い知らされた。論文を見分ける力を身につけるために読書は欠かせないものだが、高校生以下の学生も読書をする必要がある。なぜなら、普段から本に触れていると、国語の得点率が上がり、小論文を書くが書きやすくなるのだ。大学入試では、小論文が求められることがある。そのときに有利になるのだ。よって、読書は大学生にだけ良い影響を与えるものではない。高校生以下の学生にも良いのだ。積極的に読書の機会を作り、高い教養を身につけて質のいい思考力を持った社会人にならなければならない。

私は高校の時から読書は自分の知識を養うためにも必要だと意識して毎日取り組んでいた。しかし、大学受験を控えた高校三年生の時から次第に読書量が減っていて、最近ではゼロに等しいくらいだった。

今回の授業を通して改めて読書の大切さを痛感することになった。「愛する時間を持たない恋人など見たことがないではないか」(ダニエル・ペナック『ペナック先生の愉快的読書法』藤原書店、2006年、143頁)と今回の授業であったように、読書を習慣することが大切である。

今回の講義は大学生の読書に関する内容だった。近年、全く読書をしない大学生が増えている。大学で学び教養や専門知識を身につけるためには、教科書や参考書だけでなく本も読み、さらに知識を広げ教養を高めることが重要である。本を読み、実際に経験していないことを疑似体験することを通じて想像力を培い、共通の記憶に触れ、物事を考えるヒントや生きる力を得ることができる。そのためにはまず、何も考えずにただ本を読むのではなく、速読・平読・精読を使い分けて読まなくてはならない。読み終わったら本の内容をもとに自分の考えをまとめ、紙に書き出したり人に話したりする。こうした読書のやり方を習慣づける必要がある。しかし、全く読書をしていない学生が突然このような習慣を身につけることは難しい。習慣化するにはまず読書に興味を持ち、好きになることが大切だ。そのきっかけとして、図書館での取り組みやビブリオサポーター、読書サークルなどに参加するのが良い。それらを通じて読書の楽しさを見出すことができたら自発的に読書をしようという気持ちになる。全く読書をしていない大学生は、まず読書の「場」を持つべきである。

私自身、大学生になってからほとんど本を読んでいない。新生活が始まり忙しかったためでもあるが、そろそろ大学生活にも慣れてきたため読書の習慣をつけたい。高校生の頃は、大学生になったら暇な時間がたくさんあって読書もたくさんできると思っていたが、授業や課題、部活やバイトなどで意外と本を読む時間がないことに気付いた。課題は時間をかけてダラダラとせずついに集中して早く終わらせたり、朝早起きしたり、効率良く時間を使って読書をする時間を作るようにしていこうと思う。

コメント [y148]: そうですね、やはり時間はやはり作るしかないですね。

今回の授業では、「読書の勧め」という議題の話が進められた。

現在、ますます若者の読書離れが進行している。学生はなぜ読書をしないのだろうか。読書をする意義が分かっていないのではないだろうか。特に現代の学生には認識されていないことであるが、読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の話題に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることにある。大学での教養・専門を身に

つけるためには、読書は不可欠であり教科書や参考書はもとより、本を読むことが大切なのである。読書を通して想像力を培うことができれば、言語能力も同時に鍛えられる。すると、言語能力に裏打ちされた思考力が確かなものになる」(酒井邦嘉『脳を鍛える読書』、実業之日本社、2017年)ともあるように、読書は脳をも鍛える効果があるのだ。

学生が読書をしない理由の一つに、多忙であることが挙げられるが、それは時間の見方、使い方がずれているだけだともいえる。例えば、日常生活でご飯を食べるといった行為はどんなに忙しくとも一日のうちのどこかの時間を使って行うものだ。これは食という原始的な欲求を満たすための行為である。それと同様に読書を、原始的な「知的欲求」であるとみなせば、読書をするのではないだろうか。つまり、多忙であろうと関係なく、「読書」という時間を生活のなかに持つのである。

日々の生活の中で続け、習慣化することが大切だ。また、読書のコツとして、速読、平読、精読を使い分けたり、自分が本を通して学んだことを人に話したり、文章に書いたりして読書をさらに楽しむことが重要だ。

私自身、小学生の頃は本が大好きで一日中本を読んでいたこともあった。しかし部活や勉強、習い事に精一杯で、本が読みたいのに本を買いに行く時間も借りに行く時間もなくなると読書から離れてしまった。今思えば、どうにかすれば読書をする時間はあったかもしれない。しかしそれをしなかった私は正直言って、もう何を読んだらいいのか分からなくなってしまった。何でもいいのだろうが、自分の興味のある本を読みたいし、飽きしてしまうのは避けたいから悩みどころだ。だが、私の高校の担任の先生がとてつもない読書家で「受験が終わったら、とにかくたくさん本を読め」と言われていたので、その先生が勧めていた本から読みたい。

コメント [y149]: まずは興味のある本から始めてもいいのでは。

今回の授業では、読書について学んだ。読書は非常に大切であるということを理解した。それは、「知識・情報を深め、想像力を培い、共通の記憶に触れ、そして考えるヒント・生きる力を得ること」ができるからである。また、読書は、「大学での教養・専門を身に付けるために必要不可欠である」ということも理解した。読書をする際には、速読・通読・精読を使い分けるとよい、ということも理解した。「論説文を読むときには速読」、「小説やエッセイを読むときには精読」、「学術論文やレポート、実用書を読むときにはリサーチ的読み方」をする、というようにだ。また、書籍新刊点数は増加しているが、書店数は減少しているということも理解した。

読書をすることは大事だ。なぜなら、語彙力を伸ばすことができるからだ。分からない言葉を見つけたときには、その都度調べることで、単語数が増える。また、分からないことを調べる習慣もつく。語彙力を伸ばすため、想像力を培うため、などとたくさんの目的を持って、読書をしたい。

まず、今回の授業では、読書について学んだ。大学での教養・専門を身に付けるためには、教科書・参考書以外にも知識を広げ、教養を高めるために本を読むことが重要である。読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることである。また、読書のコツとして、食事をするのと同様に習慣化する。速読、平読、精読を使い分けること、読書しっぱなしではなくて、読んだらそのことをもとにかんがえたことを書いたり、人に話したりしてやることを学んだ。読書のきっかけとしてイベントなどに参加することもよい。

次に、授業に対する意見を述べる。自分は日常生活でほとんど本を読まない。読書レポートに苦勞している最中である。今までは、忙しい、時間がない、を言い訳にして本を読まなかったが今回の授業をきっかけに自分の生活を振り返ってみた。すると、本を読む時間は、自分の想像以上にあることに気が付いた。これからは、スマホを触っている時間を減らして読書に充てたい。また、もっと読書についてのイベントを多くの人に知らせる必要がある。たとえば、自分の通っていた高校はビブリオバトルが盛んにおこなわれていたが、大学に入学して友人に聞いてみると知らないという人も結構いる。だから、もっと多くの人に読書をしてもらえるように情報発信をしていくことが重要である。

コメント [y150]: まずは自分から。ぜひそうしてください。

私は気紛れに読書をするほうですが、「読書をすれば頭がよくなるから(有益だから)読書しなさい」という読書論はあまり通用しないと考えます。ただ読書をするだけでは頭はよくなりません。なぜなら、読書というインプットをしたのみであり、アウトプットをしていないからです。例えば計算のスキルは、計算の過程を頭にインプットして、練習問題で実際に計算してみる、つまりアウトプットすることを通して高めていくものです。同様に、ただ読書をするだけで頭がよくなるはずはありません。実際に文章を書いてみないと、言葉の組み立て方や表現や想像力は身に付きません。スキル向上においては、インプットしたのち必ずアウトプットしないと向上できないものです。よって読書をしただけで必ずしも頭は良くなるというわけではありません。

コメント [y151]: 私もそう思います。だから私は授業では読書の負の面もあえて紹介したのです。

また、「有益だから」と読書をさせるのは如何なものかと思います。そのような押し方はかえって読書を崇高な行為に思わせ、読書に対するハードルを上げかねません。読書は勉強ではなく、趣味でやるものです。肩の力を抜いて本を読むことが読書なのではないでしょうか。よって読書をさせるに当たっては、面白くて読みやすい本を薦めるなど、気楽に読書をさせてみる方がよいと考えます。

コメント [y152]: それゆえに、この授業では読書を勧めるだけでなく、毎週こうして文章を書く宿題を出しているのです。

今回の授業は親しみやすく、とても身近にある存在の読書でした。若者の読書離れが問題になっており、私にも思い当たる話で、解決方法としては、やはり強制的に読ますこと

コメント [y153]: 大学で本気で学問するときには、読書は趣味だと言っていられないでしょう。とはいえ、まずは気楽に読書を始めてみるということには、賛成です。

が大事です。そうすることによって、読書に親しみ、より身近に感じることが出来ます。なので、私は長田弘さんの考えに近いです。

第 1 読書をしない理由として、身近の友達にあるのは、「面倒臭い」「読み方がわからない」「親しみが無い」というものであった。だから、読書を他人事ではなく、自分にも関わりのあることだと認識すれば、自然と図書館や本屋に足を運ぶようになるのではないだろうか。

しかし、読書時間 0 分というのは寂しい。読書は大人っぽい言葉の表現の仕方や、考え方を学ぶことが出来る。その上、もう亡くなってしまっている人たちの言葉にも触れることが出来るので、もっと価値を認識して読書に取り組んでほしい。私は後期の入学者で小論文の練習と並行して読書を進めた。それによって私は、大人としての文字の使い方や、表現、考え方、幅広い知識を得た。そのおかげで、本番は自信を持って落ち着いて小論文に取り組むことができ、無事徳島大学に入学できた。読書は自分の自信にもなる、大切な道具の一つであることも、みんなに知ってほしい。

また、高校と大学の違いが読書までも現れています。まだ、高校生気分から抜け出せない私は、読書と小説を読むことの違いに驚かされています。高校では小説を読むことも読書のひとつだと教わりましたが、大学では読書=学ぶこと、だと教わりました。やはり、違うものなのでしょうか？

質問なのですが、私は読書は好きですが、処理能力が低く、何回も同じ本を読んでもうすることがあります。本を効率的に読むにはどうしたらいいのでしょうか？

今回の授業では、まず、徳島大学の学生に対する読書アンケートの結果を含めた、読書に関するデータを見た。そして、読書の目的やコツについての話聞いた。

読書に関するデータより、総書店数や出版社数、総売上高などが年々減少していること、日本の週間読書平均時間が他の国と比べるとかなり短いことなどがわかる。また、学生の読書時間が 0 分であるという割合が 45%という高い割合となっており、若い世代が読書をあまりしていないということが問題となっている。読書をしない理由としては、情報源が本以外であること、読書の優先順位が低いことなどが挙げられていた。私自身、読書が好きであるが、優先順位が低いために、読書の時間を十分に取ることができていない。しかし、読書はすべきものである。なぜなら、大学の授業で聞くこと以外の知識を得ることができたり、想像力豊かになったりするからだ。例えば小説を読むとき、自分の頭の中で場面を想像しながら読む。小説の中の出来事と全く同じことが日常で起こることはあまりない。それでも、想像力を鍛えることはできる。また、様々な登場人物の考え方をすることは、自分の視野を広げたり、自分とは異なる人の考えを受け入れたりするのに役立つことがある。

私は、読書をしないのは、情報源が本以外であるからだという理由に反対である。現代

コメント [y154]: いろいろな読書があります。たしかに大学では読書が専門を学ぶうえでの基本となるでしょう。

コメント [y155]: それでよいんじゃないでしょうか。私も同じ本を何度も読みます。

コメント [y156]: あまり気にすることは無いと思います。何回読んでもいいのではないのでしょうか。

では、スマートフォンなどの機器が発達し、多くの情報を早く知ることができる。ちょっとした情報を早く調べたいときには、使いやすいものである。また、新聞は本以外の情報源であるが、信頼できる情報が多く載っている。しかし、授業で学んだことをもっと詳しく知りたいときや、知識や情報を深めたりするときには、ネットで調べるよりも、どんな人が書いたか、どの出版社が出したかなどがすぐにわかる本の方が情報源として良い。一つのテーマに対して多くの本が出版されている場合は、読み比べることもできる。これが、読書をしないのは情報源が本以外であるからだということに反対する理由である。

読書の時間が減っているという問題に対する解決策は、習慣化することが一番である。私が通っていた小学校では朝読書の時間が設けられていた。しかし、中学校以降は、読書の習慣をつけるようにしましょう、という呼びかけだけで、読書のための時間がなかった。読書が好きな人はそんな時間がなくても読むかもしれないが、興味のない人は、読書の習慣がないまま大人になる。呼びかけだけではなく、**生徒・学生が学校にいる時間内**で、読書をするための時間を設けるべきである。

5月12日の授業は、読書についての講義でした。事前に答えたアンケート調査をもとに、私たちの読書状況を表していました。年齢別にみると、10代の人が読書を一番していませんでした。私自身も、漫画は読みますが、文庫本は読んでいないことに気づかされました。読書をすることは大切です。読書をすることで、今までになかった考え方や発想をもったり、新しい世界観を味わったりできるからです。多くの考えをもつと、様々な視点から物事を見ることができ、国際人に一歩近づくことができるでしょう。そのためにも、読書の時間をつくるのが大切です。授業の空きコマやJRに乗っている時間を使って、親しみの持ちやすい本から読んでいきます。

今回の授業では、「読書のすすめ」という講義を受けた。まず、事前に受けたアンケート結果について説明を受けた。アンケート結果は読書時間を全く持たない徳大生が約三割、毎日三十分程度読書をする人は約半数、それ以上読書をする人の割合は約二割というものだった。また、その他にも日本の出版点数・書店数、読書の国際ランキング、読書の日米比較などの読書に関するデータについても説明を受けた。説明を受け、日本の新刊書籍は年々増加しているにもかかわらず、書籍の売り上げや出版社・書店は年々減っているという矛盾した状況になっていることが分かった。また、日米大学の読書量の比較では約四倍もの差があることもわかった。

次に読書の目的についての説明を受けた。読書の目的は「知識・理解を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ること」と定義されていた。たしかに、読書をすることで過去に生きた先人たちの記憶や想いに触れる

コメント [y157]: 私は、他の授業（教養教育など）では、宿題として家で読ませるようにしています。大学には教員がいるのだから、一人でできる読書よりも、対面による授業を行った方がよいからです。

ことができるだけでなく、知識・情報を深めることができ、それは考えるヒントや生きる力になり得るといことは納得できた。また、このお話の説明の中でカフカの『虫』に出てくる毒虫とはどんな虫か、という問いを投げかけられた。私は、毒虫は黒い巨大な蜘蛛であると考えた。その後、何人かの毒虫の絵が示されたがどの毒虫も少しずつ違っていた。このように想像する機会を持つことで、想像力を鍛えられることを知ったので、これからの読書に取り入れる。

次に読書のコツについて聞いた。音読や既知を読むアルファー読みや未知を読むベーター読みなどの様々な読み方を教えられた。その中で「多忙を言い訳にしない」というものがあった。その言葉の真意は心の余裕があれば早く読めるというものである。また、これらのコツを使えるようにするために習慣化するなどが必要だと聞いた。

これらのことを聞いて、より多くの大学生が読書をするようになるには、読みたくなる本をできるだけ早く多く見つけることが必要である。そのためにより積極的に図書館や書店に行くようにしたり、友達や本好きの人にお勧めの本を聞いたりすることが必要である。そうすることで本と出合う機会を多く持つことができ、自分にとってより良い本を探し出すことができる。また、上手く本を探すことができたという経験を多くすればだんだんと読書をする習慣がついてくる。

コメント [y158]: そういう習慣と環境を作るといことは、大事ですね。

今回の総合科学入門講座においては、読書のすすめの講義が行われた。内容としては、大学生の読書時間や世界の国々と比べた日本の平均読書数などであった。

私は、小学校の頃は週に5冊は本を読んでいたが中学に進学すると同時に読書冊数が一気に落ちた。その理由としては、部活動や勉強といった他のものに時間を取られることが多くなったからだ。読書は教養の為には必要なものであるが、あくまでも趣味のひとつとして本を読む人が多い。限られた時間の中の自由時間で、幾らかの趣味や娯楽の中から読書以外のものを選択して、時間を使う人が大学生では多い。それが大学生の読書時間の減少の原因の一つではないか。